

1334	建武1. 2. 5	和田茂実, 奥山莊金山郷で和田義成の家人らと合戦する(②167)
	7.12	色部長倫ら, 小泉持長・大河将長らと戦う(②74・171)
		◇近衛基嗣, 奥山莊中条などを得る[[4]1264]
1335	建武2. 3.12	越後国に反建武政府軍蜂起する(②171)
	6.2	和田茂継, 奥山莊中条支配について綸旨を得る[[4]1779]
	7	北条時行, 信濃に挙兵し鎌倉に入る(②177)
	8.19	足利尊氏, 時行を破り鎌倉に入る(②177)
	9.21	色部長倫ら岩船宿で戦う[[4]1045]
	11	足利尊氏, 鎌倉で挙兵。19日新田義貞, 尊氏討伐に向かう。越後魚沼の新田一族および小国・河内・高梨・池・風間氏らの越後武士, 義貞に従う(②178・181)
	12.19	足利方の佐々木加地景綱・色部高長ら, 新田方の河村秀義と瀬波郡で戦う(②79・181)
	12.24	景綱ら, 新田方の池・風間・小木・河内氏と蒲原津で戦う(②181)
1336	建武3 延元1.2. 7	景綱ら, 池氏らと三島郡島崎城で戦う[[4]1051]
	2	和田茂実, 近衛領奥山莊中条などの支配安堵を求める[[4]1264]
	5.17	景綱ら, 加地莊佐々木原で戦う(②181)
	8.26	景綱ら, 菅名莊・黒金津保で戦う[越佐史料2]
	8.3	光厳上皇, 京都実相院に所領紙屋莊を安堵する[[5]4225]
	10.12	信濃の小笠原・村上氏ら, 越後の新田方を攻撃し, 越後府中から義貞代官堀口貞政を追う(②183)
1337	建武4 延元2.4.16	池・風間氏ら, 頸城郡水科・水吉で足利方と戦う(②183)
	5.16	色部高長ら, 小国氏らと岩船宿で戦う(②74)
	5.22	足利尊氏, 大友氏泰に紙屋莊を与える[[5]4316]
	6.1	和田茂継, 奥山莊中条を譲る[[4]1760]
	12. 5	三浦道祐, 金沢称名寺と奥山莊金山郷を争う[[5]4060]
1338	暦応1 延元3.7. 3	大井田・中条・鳥山・風間ら新田方の諸氏, 越前の新田義貞に合流するため越後府中をたつ。翌閏7月2日, 義貞死去(②183)
1340	暦応3 興国1.8.20	義貞三男・新田義宗, 越後から信濃に出撃, 市川倫房らと戦う(②185)
1341	暦応4 興国2.4.13	上杉朝定, 鶴川莊の安田条を丹波光福寺に寄進する[[5]4216]
	5.28	北朝方, 南朝方新田一族と妻有莊で戦う(②185)
	6. 1	色部高長, 蒲原津で小国氏と戦う[[4]1051]
1342	康永1 興国3.12.14	和田一族尼玄法, 和田茂実の奥山莊北条三か村における非法を訴える(②167・171)
1343	康永2 興国4.11.20	加地又三郎の押領した加地莊桑口・高浜を佐々木加地章氏女子尼明泉に安堵する[[4]1781]
	12.26	足利尊氏, 三浦道祐に奥山莊関郷などを安堵する[[4]1253]
1344	康永3 興国5.4. 5	色部長倫, 惣領の決定を妻にゆだね所領を譲る[[4]1029]
	4	佐渡石田郷などの年貢結解状を作成する[[5]3063]
	10.2	足利直義, 上杉憲顕に上田莊を守護領として与える(②188)
	11.16	足利尊氏, 佐渡の青木保などを園城寺に寄進する[[5]4204]
	11	尼明泉, 加地又三郎の加地莊の押領を重ねて訴える[[4]1894]
1345	貞和1 興国6.5.26	足利尊氏, 和田茂実に奥山莊北条の海老名領を勲功として与える[[4]1281]
	6. 7	近衛家, 和田茂助による奥山莊中条の年貢抑留を幕府に訴える(②242)
	8. 1	佐渡羽茂郡の地頭本間貞久ら, 小比叡社の懸仏を作る[[5]3148]
	8.15	小河莊太田の神社で鰐口を造る[[5]2929]
1346	貞和2 正平1.7.17	源貞泰, 吉河莊中条を譲る[[5]4009]
	7.19	幕府, 三浦道祐と金沢称名寺の奥山莊金山郷相論を裁決し, 道祐に与える[[4]1257]
	12. 2	雪村友梅, 京都建仁寺で死去する[越佐史料2]
1347	貞和3 正平2.6.	羽黒義成, 所領安堵を求める[[4]1920]
	10.13	和田茂実, 奥山莊北条の所領安堵を求める[[4]1289]
1348	貞和4 正平3.5.17	足利直義, 茂実の所領譲与を承認する[[4]1291]

1349	貞和5 正平4.3.	佐渡国高家村の年貢を守護所に進上する(②91)
1350	観応1 正平5.2.11	奥山莊雑掌, 和田茂助の年貢抑留を幕府に訴える[[4]1785]
1351	観応2 正平6.2.13	足利尊氏, 細川頼和に勲功の賞として白河莊上下条を与える[[5]4294]
	7.22	源家泰, 吉河莊中条を譲る[[5]4011]
	8.13	上杉憲顕, 居多神社に社領を寄進する[[4]2120]
	9.2	河村秀継, 荒河保の自領を譲る(②79)
	11.2	尊氏方の宇都宮氏綱と越後諸氏, 柏崎で直義方と戦う(②192)
1352	文和1 正平7.1.29	中院貞平・村山信義ら, 池一族と越後国府で戦う[[4]1716]
	②.16	和田茂実ら, 奥山莊黒川城で南軍上杉憲顕軍と戦う[[4]1259]
	8.3	村山義盛ら, 古志郡蔵王堂で池・多劫・石坂氏と戦う[[4]1717]
	9.3	足利義詮, 守護上杉憲顕に丹波安国寺領鶴川莊安田条の沙汰を命じる[[5]4217]
1353	文和2 正平8.11.8	和田義成ら, 古志郡乙面陣で宗良親王・新田義宗らを破る[[4]1419・1420]
1354	文和3 正平9.2.6	足利基氏, 勲功として奥山莊金山郷等を中条茂資に与える[[4]1791]
	8.22	中条茂資, 大輪寺に寺領を寄進する[[4]1472]
	9.23	茂資ら, 魚沼郡宇賀地で宗良親王・新田義宗・脇屋義治らと戦う(②194)
1355	文和4 正平10.3.4	尊氏方の上杉憲将・宇佐美氏ら, 頸城郡顕法寺城に挙兵。北軍の風間長頼・村山隆直らこれを攻撃する(②195)
	3.25	憲将ら, 頸城郡柿崎城に籠城する。4月14日北軍に降参する(②195)
	4~7.	茂資ら, 蒲原郡加茂の陣か峰で, ついで古志郡の蔵王堂・●脱(志度乃岐)莊於木野島・大島莊平方原で戦う(②195)
	12.22	越後出身の遊行六世一鎮, 死去する[越佐史料2]
1357	延文2 正平12.4.26	越後守護宇都宮公綱, 吉河莊大津・●生を本郷弥五郎に渡す[[5]4001]
1358	延文3 正平13.6.15	鶴川莊上条の鷲尾寺の十一面観音像が造立される(②369)
1359	延文4 正平14.6.13	黒川茂実(応寸), 奥山莊内の所領を子の時実に譲る(②281)
1360	延文5 正平15.4.3	頸城郡柿崎の尼教浄, 上洛して本願寺存覚から本尊を受ける(②478)
1362	貞治1 正平17.2.9	藤原為顕, 亡父菩提のために刈羽郡原田保を同郡正寿寺に寄進する[[5]2367]
	6.27	上杉憲顕, 頸城郡保倉保を山城天童寺に寄進する[越佐史料2]
	11.2	越後風間氏の跡, 大友氏時に与えられる[[5]4318]
1363	貞治2 正平18.3.24	憲顕, 関東管領となって鎌倉に赴く(②197)
	4.21	幕府, 頸城郡佐味莊を西大寺に渡す[[5]4272]
	8.18	足利基氏, 宇都宮氏綱の憲顕攻撃を聞き, 氏綱を討つ[越佐史料2]
	10.2	越後西生寺の弘智, 死去する[越佐史料2]
1364	貞治3 正平19.4.	黒川時実, 高野・関氏と奥山莊の所領をめぐる争う(②279)
	6.18	蒲原郡五箇浦の尼妙蓮, 本願寺存覚から本尊を受ける(②478)
		◇小河莊岩谷村の平等寺, 宝印を刻す[[5]2932]
1365	貞治4 正平20.2.5	幕府, 越後・佐渡両国に春日社造営料棟別銭10文を賦課する[[5]4268・4269]
1367	貞治6 正平22	越後守護上杉憲栄, 出家する[上杉系図大概・越佐史料2]
1368	応安1 正平23.4.15	色部長忍, 所領の加納方色部条などを嫡子に譲る[[4]1030]
	7	新田義宗・脇屋義治ら, 上越国境に挙兵, 憲顕これを破る(②198)
	9.19	憲顕, 死去する(②198)
1370	応安3 建徳1.4.18	魚沼郡四日町神宮寺の広目天像が造立される[[5]2492]
1374	応安7 文中3.4.27	安田道幸(憲広), 鶴川莊安田条を次子憲朝に譲る(②246)
1375	永和1 天授1.9.6	幕府, 鶴川莊安田条上方を丹波安国寺に寄進する[[5]4215]
	10.3	中条政資, 所領を嫡子に譲る[[4]1803]
1376	永和2 天授2.⑦.10	上杉憲栄, 加地時秀の跡を鎌倉円覚寺に与える[[5]4051]
1377	永和3 天授3.5.13	安田道幸, 鶴川莊安田条上方を安国寺に渡さず係争する[[5]4209]

1378	永和4 天授4.8. 1	国上寺金蔵月山, 魚沼郡浦佐毘沙門天の勧進に加わる[[5]2589]
1380	康暦2 天授6.4. 8	幕府, 魚沼郡妻有荘を上杉憲方に安堵する((2)250・272)
	6. 2	幕府, 本間直泰に佐渡宮浦保・久知郷等を安堵する((2)201)
	6.28	幕府, 毛利憲朝の鵜川荘安田条地頭職を安堵する((2)247)
	11.15	三島郡白鳥荘上野郷の預所資明, 領主随心院に請文を提出する[[5]4229]
1381	永徳1 弘和1.4.	本間季綱, 所領佐渡二見半分の安堵を求める[[5]3054]
	12.14	本間直泰, 佐渡梅津保の安堵を求める[[5]3060]
	12.24	本間左衛門四郎, 所領佐渡長木等を安堵される[[5]3874]
1382	永徳2 弘和2.11. 1	上杉憲方, 三島郡小加礼井村を氷室真興に打ち渡す[[4]1533]
	11.13	藤原清信ら, 浦佐保南方を普光寺毘沙門堂に寄進する[[5]2590]
1383	永徳3 弘和3.11.15	吉見氏頼, 小河荘上条・下条内野沢等を得田章房に与える[[5]4026]
1384	至徳1 元中1.2. 7	熊野那智山道賢坊の旦那に佐渡の計良・中川一族がみえる[[5]4301]
	8.21	幕府, 奥山荘金山郷を金沢称名寺に安堵する[[5]4063]
1386	至徳3 元中3.2.26	三島郡妙法寺の日増, 置文を定める[[5]2644]
	10.12	中条寒資ら, 奥山荘内田地を大輪寺に寄進する[[4]1475]
1387	嘉慶1 元中4.5.21	氷室真興, 小加礼井村を毛利憲広に売却する[[5]2756]
	5.3	本郷詮泰, 三島郡吉河荘中条北方を安堵される[[5]4004]
1389	康応1 元中6.4.14	佐渡久知郷長安寺の宥快, 千仏経を納める[[5]2978]
	6.21	毛利入道道依(元豊), 佐橋荘を安堵される[[4]1535]
	10.22	毛利憲広, 丹波安国寺と鵜川荘上条上方を争う[[5]4214]
1390	明德1 元中7.8. 3	本間直泰, 佐渡国分寺に所領を寄進する[[5]3112]
1391	明德2 元中8.9.28	西大寺の末寺に越後安禎寺がみえる[[5]4067]
1392	明德3 元中9.5.	頸城郡富川保の浄応禅寺の住持, 梵鐘を造る[[5]4348]
	(10.	南北朝合一
	10. 2	幕府, 国上寺に寺領を安堵する[[5]2819]
		◇越後各地で板碑の建立さかんとする((2)176)
1393	明德4. 7.	このころ, 旧南朝方小国・白河氏, 蒲原郡五十嵐保を押領する[越佐史料2]
	11.28	上杉憲方, 所領上田荘・千屋郡国衙職等の安堵状を紛失, 再安堵される[[3]630]
1394	応永1.	◇傑堂能勝, 岩船郡門前に曹洞宗耕雲寺を創建する((2)503)
1395	応永2. 3.18	中条寒資, 奥山荘赤川村を大輪寺に寄進する[越佐史料2]
	5	三島郡鵜川神社の社殿を再建する[越佐史料2]
1396	応永3. 7.23	幕府, 越後国衙領半分・上田荘・五十公郷などを上杉房方に安堵する[[3]782]
1398	応永5. 3. 5	山浦家経, 養子水原初犬丸に山浦四か条を譲る((2)85)
1402	応永9. 8. 3	長尾実景ら21人, 頸城郡鞍馬寺に馬疋を寄進する[[4]2244]
	9.14	平聖融, 魚沼郡石打の大明神に鰐口を奉納する[[5]2479]
1403	応永10.	◇神戸最重, 傑堂能勝を請じて蒲原郡滝谷に慈光寺を創建する((2)504)
1404	応永11. 2.22	長尾景実, 魚沼郡浦佐普光寺に仏供田を寄進する((2)250)
	6	魚沼郡河井村の明口神社に鰐口が奉納される[[5]2456]
1405	応永12. 8.19	佐渡の久知本間氏, 家中の給分・諸役を記録(久知給分帳)する((2)202)
1406	応永13.11.20	上杉房方, 蒲原郡吉田保を山城等持院に寄進する[[5]4239]
	11	本間高泰, 佐渡久知郷長安寺の掟を定める[[5]2976]
1407	応永14. 3.	島田益直, 宣陽門院領吉河荘の年貢を記録する[[5]4030]
	7. 2	本間詮忠, 佐渡長木保等を子息有泰に譲る((2)200)
	12.23	安田(毛利)憲朝, 末子亀一丸(のち道元)に所領を譲り, 置文を定める((2)247)
1408	応永15. 6. 1	道徳, 刈羽郡二田神社の大乗経の経箱を造る[[5]2416]
1409	応永16. 3.16	中条寒資, 奥山荘八幡宮に鰐口を奉納する[[5]2516]
1410	応永17. 3.15	白崖宝生, 魚沼郡に関興庵を建立する[越佐史料2]

1411	応永18. 7.10	某, 古志郡中浦會村を栖吉普濟寺に寄進する[[3]257]
	8.19	居多神社, 社領注文を作成する(①670)
1412	応永19. 3.21	中条寒資, 子孫に置文を定める[[4]1810]
1414	応永21. 2.28	本間道正, 佐渡郡椿の塩釜等を後家に譲る(②345)
1415	応永22. 8.21	上杉房方, 大面莊吉野屋を安田道元に宛行う[[4]1538]
	12.18	梅山間本, 岩船郡耕雲寺の能勝傑堂を越前龍沢寺の後住第一とする[[5]4107]
	12	家盛, 弥彦神社に大太刀を奉納する[[5]2818]
1416	応永23.10.10	上杉禪秀の乱。関東管領上杉憲基, 越後に逃れ守護上杉房方を頼る(②208)
1417	応永24. 7.	古志郡●脱莊蒲沢の満願寺に鰐口が寄進される[[5]2419]
	11. 9	本郷持泰, 吉河莊中条北方の安堵を求める[[5]4002]
1418	応永25. 4.19	伏見宮貞成親王, 田村盛兼を加地莊・菅名莊の代官とする[越佐史料2]
	6. 1	佐渡羽茂郡田浦村の天神宮の懸仏ができる[[5]3149]
1419	応永26. 5.21	本成寺日陣死去する[越佐史料2]
	6.29	小河莊, 会津芦名氏に攻撃される[越佐史料2]
	6.29	佐渡久知郷の長安寺定明, 大般若經を納める[[5]2979]
1420	応永27. 4.17	幕府, 天竜寺領保倉保・富川保の課役を免除する[越佐史料2]
		◇上杉憲実, 雲洞庵を再興する(②503)
1421	応永28.11.10	越後守護上杉房方死去, 朝方嗣ぐ(②208)
1422	応永29.10.14	越後守護朝方死去, 上杉某(朝方の弟頼方か)守護となる(②209)
	10.26	上杉憲栄, 死去する[越佐史料2]
1423	応永30. 9.	◇越後に応永の大乱起こる(②211)
		◇伊達氏一族滑川某, 奥山莊に侵入, 黒川基実を襲って, 乙宝寺仏舎利を奪う。中条房資, 仏舎利を買い戻し, 乙宝寺に寄進する(①677 ②429)
1424	応永31. 9.16	金山某, 奥山莊の知行分の神祇官段錢を納める[[4]1813]
	10.26	京都随心院領白鳥莊の年貢, 守護請となる[[5]4230・4231]
1425	応永32.8~11	中条房資, 長尾朝景に属して戦う[[4]1816・1817]
1426	応永33. 3.20	上杉氏, 弥彦莊の下条等を安田道元に与える(②214)
	7.19	上杉頼藤, 大面莊内二か所を中条房資に与える[[4]1818]
	10	応永の大乱再発。中条房資ら長尾邦景討伐のため三条嶋ノ城に山吉久盛を攻める。加地・新発田らの翻意により房資ら敗れる。幕府, 長尾邦景を許し, 争乱終わる(②215)
	11	勸進聖永日, 西古志郡乙面保の宗勝寺に鰐口を納める[[5]2645]
1427	応永34. 6.15	色部朝長, 小泉莊加納の惣領職を譲る[[4]1032]
	8. 7	耕雲寺の傑堂能勝死去する[越佐史料2]
	11. 9	本間真本ら, 羽茂大蓮寺の本尊阿弥陀仏を造立する[[5]3163]
	11	越後の戦乱終る(②216)
1428	正長1. 6. 9	幕府, 黒川氏実の奥山莊北条等の所領を安堵する(②264)
	10.16	長尾邦景, 関東公方足利持氏に誘われ, これを幕府に内報する[越佐史料2]
1429	永享1. 1.18	佐渡正福寺の宝印が作成される[[5]2952]
1430	永享2. 2.27	幕府, 京都石清水八幡宮領乙面保を安堵する[[5]4218]
	8	幕府, 上杉房朝に足利持氏が攻める那須氏資の援助を命じる[越佐史料2]
1431	永享3. 3. 5	幕府, 京都実相院領紙屋莊を足利満貞に与える[越佐史料2]
1432	永享4. 9. 9	道浄安景ら, 糸魚川の天津神社神宮寺に梵鐘を寄進する[越佐史料2]
1433	永享5. 6.11	幕府, 上杉持房に紙屋莊・鶴川莊を引き渡すよう長尾邦景に命じる[越佐史料2]
	10.23	会津の新宮盛俊, 小河莊で自殺する[塔寺八幡宮長帳・越佐史料2]
	12. 3	長尾実景, 頸城郡鞍馬寺に寺領を寄進する[[4]2245]

1434	永享6. 2.25	色部重長, 父朝長について, 重ねて耕雲寺に所領を寄進する[[4]2035]
	5. 4	幕府, 世阿弥元清を佐渡に流す(②400 ③754)
	6. 5	芦名盛政, 子息盛久に所領小河莊等を譲る[[5]3751]
1436	永享8. 3.	黒川氏実, 奥山莊蔵王の如意輪権現に鰐口を寄進する[[5]4418]
1437	永享9. 9.21	幕府, 中矩を米山寺住職とする[越佐史料2]
	11.15	西片光行, 魚沼郡吉谷の弥彦神社に鰐口を寄進する[[5]2451]
1438	永享10. 2.22	幕府, 本間季直の所領石田郷等を安堵する[[5]3876]
	7.19	西片光行, 魚沼郡吉谷の宇都宮に鰐口を寄進する[[5]2452]
	8	永享の乱。長尾実景, 関東に出て上杉憲実に従う[越佐史料2]
	11. 3	憲実, 足利持氏を捕え鎌倉に幽閉する(②219)
1439	永享11. 2.10	憲実, 足利持氏を自殺させ, 出家して清方に政務を譲る(②219)
	10.1	幕府, 蒲原津を結城氏朝に与える[[5]3207]
	11. 7	上杉房朝, 居多神社に社領を寄進する[[4]2124]
1440	永享12. 4.	結城合戦始まる(3月)。上杉清方, 越後等の兵を率いて参戦する(②219)
	8. 9	黒川氏実, 中条合戦の戦功を賞し, 所領を与える[[4]2329]
	9.26	長尾実景, 越後の軍を率いて下総の結城城で戦う(②220)
1441	嘉吉1. 4.16	結城城落ちる。実景, 安王・春王を捕え京都に向かう(②220)
	5.15	魚沼郡波多岐莊倉俣の東光寺の雲版完成する[[5]2515]
	5.16	実景, 美濃垂井で安王・春王を斬る(②220)
	6.13	嘉吉の乱。上杉憲実, 越後の所領を次子房顕に譲り引退する(②221)
	12.29	幕府, 実景の戦功を賞す(②220)
1442	嘉吉2.10.20	幕府, 上杉房顕の越後の所領を安堵する[3]778]
1444	文安1. 8.	憲実, 越後国衙領と上田莊を房顕に譲る(②273)
	10. 8	上杉房朝, 本成寺に安堵状を与える[[5]2667]
1445	文安2. 2.24	房朝, 水原氏の所領を安堵する(②222)
1446	文安3. 6.	道円, 府中八幡(岡前寺千手観音)の鰐口を施入する[[5]4332]
	8	南英謙宗, 弥彦莊の石瀬に種月寺を建てる(②504)
		◇房朝, 京都から帰国して佐橋莊の毛利刑部少輔を討つ(②224)
1447	文安4. 8.23	幕府, 京都天竜寺領の越後富川保・保倉保・西広島を守護不入とする[越佐史料3]
	10.23	紀伊熊野の執行法印権大僧都道珍, 旦那佐渡の計良・中川一族を寛宝坊に譲る[越佐史料3]
1449	宝徳1. 2.27	上杉房朝京都で死去。清方の子房定嗣ぐ(②224)
	9. 9	上杉房定, 関東公方に成氏を擁立する[越佐史料3]
		◇本願寺蓮如, 越後国府を訪れる。ついで蒲原郡鳥屋野の浄光寺を訪ねる(②478)
1450	宝徳2.11.12	房定, 越後府中に長尾邦景を攻め、邦景を自殺させる(②224・260)
	9.18	中条房資, 奥山莊中条の所領を子息朝資に譲る[[4]1822]
1452	享徳1. 1.11	房定, 黒川氏実に証状を与え, 文書紛失の所領を安堵する[[4]1380]
1453	享徳2. 6.25	房定, 頸城郡根知で長尾実景と戦うという[[4]1722]
	12	黒川氏実, 文書紛失の所領につき, 幕府の安堵を求める(②264)
		◇中条房資, 奥山莊の鶏冠城を修復する[[4]1316]
1454	享徳3. 4.28	房資, 曾祖父以来の中条家記録を作成する[[4]1316]
	6.15	西方秀義, 刈羽郡内の田地を船丸阿弥陀に寄進する[[5]2369]
	6.24	色部重長, 岩船郡小泉莊加納の田地を耕雲寺に寄進する[[4]2038]
1455	康正1. 4. 2	大島莊蔵王堂の別当恵実, 梵鐘を造る(②448)
	6. 5	房定, 足利成氏と上野三宮原で戦う[[3]194 [5]3426ほか]
1456	康正2. 9.17	房定, 中条朝資らを率いて足利成氏と武蔵岡部原で戦う[[4]1740]
		◇佐橋莊北条の専称寺焼失する[[4]2293]
1457	長禄1. 6.19	毛利広栄, 焼失した専称寺に寺領を寄進する[[4]2293・2294]
1458	長禄2. 4.15	房定, 本成寺の売得地を安堵する[[5]2665]

1459	長祿3. 3.15	上田荘の長尾房景, 上野国府の大蔵坊を先達とし, 熊野参詣をはかる(②385)
	5.19	種月寺の南英謙宗死去する[越佐史料3]
	10.14	房定, 武蔵太田荘で成氏と戦う[越佐史料3]
	10.25	京都実相院の寺領目録に紙屋荘がみえる[[5]4226]
		◇大和西大寺の6人, 佐渡小比叡の蓮華峰寺に参詣する(②411・443)
1460	寛正1. 8.12	本間高直, 佐渡羽黒山大権現の社殿を建立する[[5]3064]
1461	寛正2. 6.12	斎藤清信, 善照寺の増珍に田地を売却する[[5]2370]
	11	長尾房景, 浦佐普光寺に制札を出す[[5]2593]
		◇越後飢饉[越佐史料3]
1462	寛正3. 3.23	紀伊熊野の善成坊什珍, 越後旦那の遠藤・渡辺一族らを花蔵院に売却する[越佐史料3]
	7.24	幕府, 瑞洵を米山寺住職とする[越佐史料3]
	12.27	安田道元, 鶴川荘安田条等の所領を嫡子重広に譲る[[4]1544]
1463	寛正4. 8.22	尻高亀鬼丸, 上田荘木六郷長慶庵に寺領を寄進する[[5]2549]
	12.12	房定, 信濃の高梨政高と戦う[越佐史料3]
1464	寛正5. 7.26	幕府, 梵什を普済寺, 周基を米山寺の住職とする[越佐史料3]
	8. 3	小河荘の西山日光寺の梵鐘を造る[越佐史料3]
	8.27	房定, 中条定資に所領を安堵する[[4]1916]
1465	寛正6. 7. 8	京都常光院の堯恵, 信濃善光寺参詣の途次, 米山薬師に登拝する(②351・378・437)
1466	文正1. 2.12	関東管領上杉房顕死去。房定の子顕定嗣ぐ(②227)
	6. 3	房定, 発智氏らを率いて武蔵五十子に戦う[[4]1623]
	8. 4	幕府, 中良を米山寺住職とする[越佐史料3]
1467	応仁1. 5.	応仁文明の乱起こる
	6	房定, 善照寺に制札を与える[[5]2385]
	7.27	刈羽郡善照寺の増珍, 寺領等について置文を作る[[5]2386]
	7	坊金城主石田氏, 頸城郡顕聖寺を再興する[越佐史料3]
1468	応仁2.12.13	発智景儀, 恩地を子息万歳丸に譲る[越佐史料3]
1469	文明1. 2.23	専称寺界阿, 鹿島社に鎮守田等を寄進する[[4]2262]
1470	文明2. 5.18	弥彦神社の御頭役を記録する[[5]2879]
	12.29	房定, 古志長尾氏の当知行を安堵する[[3]169]
1471	文明3. 2.22	弥彦神社の神条式を定める[[5]2792]
	3	房定, 関東に出陣し, ついで越後に帰る(②228)
	4. 5	寺尾長祐, 刈羽郡善照寺に寺屋敷を寄進する[[5]2393]
	5	佐橋荘の毛利(安田)房朝, 房定にそむく。房定, 房朝の甥重広にこれを討たせる(②228)
	8	新保盛秀, 大崎保の八幡宮に鰐口を納める[[5]2657]
	12.27	房定, 安田重広に一族房朝を討たせ, 忠賞を与える(②228・247)
1472	文明4. 9.17	黒川氏実の家中落合氏, 所領支配をめぐる争う。氏実, 文書紛失を守護に届け, 知行安堵を受ける[[4]1383]
1473	文明5. 6.27	房定, 発智・江口氏らに関東出陣の準備を命じる[[4]1622]
	10. 7	長尾房景, 浦佐普光寺に法事励行を命じる[[5]2594]
	11	小河荘の山内通信, 五十島若宮八幡宮に大夫屋敷を寄進する[越佐史料3]
	12.18	房定, 魚沼郡吉谷十八社のうち三社の諸役を免除する[[5]2444]
1474	文明6. 8.18	色部朝長, 一族飯岡氏と寺庵領を争い, 守護に訴える(②287)
1475	文明7. 6.18	長尾房景, 浦佐普光寺の別当職を安堵する[[5]2595]
1477	文明9.12.27	房定, 安田重広に小国保を与える(②247)
		◇村上耕雲寺六世太菴(守)梵守, 華報寺を復興する(②495)
1478	文明10. 3.28	京都随心院の厳宝, 所領白鳥荘に下る[越佐史料3]
	3	飯尾宗祇, 京都から越後に向かう[越佐史料3]
	12.18	善照寺の増珍, 寺領の段銭等の注文を作る[[5]2397]
	12.2	佐渡の殿内彦五郎, 東光寺に鰐口を奉納する[[5]3168]
	12.3	房定, 安田重広と不退寺の山論を裁可する[[4]1550]

1479	文明11. 5. 3	房定, 本成寺の学頭職・末寺支配を安堵する[[5]2673]
	11.24	黒川氏実, 所領を子息頼実に譲り, 置文を作る(②288)
	11	房定, 関東に出陣して管領頼定を助ける[越佐史料3]
1480	文明12. 7.13	黒川氏実, 頼実に家中の統治について置文を与える(②288)
	10. 5	黒川氏実, 家中から誓約書をとる(②288)
	11.27	房定, 足利成氏と幕府の和睦斡旋をはかる(②230)
	12.18	中条朝資と黒川氏実, 所領の境界を争う(②291)
1481	文明13. 5.24	房定, 弥彦神社修造のため棟別銭を賦課する[[4]1843]
1482	文明14. 2.25	越後守護代長尾重景死去。能景嗣ぐ(②240)
1483	文明15.12.13	色部朝長, 家督を曾孫松鶴丸に譲る(②287)
		◇古志郡内の検地帳を作成する[[3]777]
1485	文明17. 2. 9	上田莊木六郷長慶庵領年貢取帳を作成する[[5]2551]
	4.16	小国重頼, 種月寺に聖經を寄進する[越佐史料3]
	春	房定, 足利義政の寿像を画かせ, 至徳寺の章岳を京に送り相国寺横川景三の讃を求める(②233)
1486	文明18. 3.10	房定, 従四位下相模守となる(②232)
	5.26	幕府, 房定に対し青苧本座以外の商人による青苧売買を禁止するよう命じる(②392)
	6.13	常光院堯恵, 越後府中を再訪する。その後柏崎から上野国へ向かう(②234・351・379)
	7. 8	黒川氏実死後, 黒川・中条両氏が境界を争う[[4]1923~1928]
	7.15	聖護院道興, 京都から越後国府に着く(②234・379)
	8. 4	足利義政, 越後安国寺のため大蔵経を朝鮮国王に求める(②234)
	8.21	刈羽郡原の普光寺に寺領施入される[[4]2314]
		◇房定, 足利義尚に「越後布三十端」, 「筋子一折」などを贈る(②355・390)
1487	長享1. 7.15	京都随心院領白鳥莊の年貢未進続く[越佐史料3]
	11.28	堯恵, 上野から越後に入る(②236)
		◇上杉(山内)頼定, 上杉(扇谷)定正と争う。房定の子定昌, 頼定を助ける(②236)
1488	長享2. 3.24	房定の子定昌, 上野白井で自殺(②236)。発智景儀殉死する[越佐史料3]
	6.17	連歌師宗祇, 来越し定昌の墓前に詣でる(②237)
	8.11	房定, 中条定資らを率いて上野白井城にあり, 頼定を助ける(②236)
	9. 3	房定, 三男房能の祝儀を行う(②237)
	10. 2	万里集九, 上野から越後に入る。各地に滞在, 翌年5月帰途につく(②237・352・360・380)
1489	延徳1. 7.22	中条定資, 関東から帰国する[[4]1832]
	7	本庄房長, 房定に反旗を翻す。房定, 中条定次らに帰国を命ず(②236)
1490	延徳2. 8.11	房定, 中条定資に恩賞として奥山莊黒川分4か所を与える(②143・247・292)
	12.17	幕府, 性●を米山寺住職とする[越佐史料3]
1491	延徳3. 3.11	前管領細川政元, 越後から越中に入る(②237)
	6.16	長尾頼景, 浦佐普光寺別当職を安堵する[[5]2597]
	11.28	刈羽郡原の百姓ら, 同村普光寺に寺領を寄進する[[4]2315]
1492	明応1. 3.20	房定, 古志郡栖吉の普済寺に寺領を寄進する[[3]186]
	8.1	養泰寺闇佐, 頸城郡松苧神社領を売却する[[4]2256]
	9	安国寺正音ら, 京に上り横川景三から字偈をもらう(②237)
	12. 5	房定, 弥彦神社の戸内を改易する[[5]2882]
		◇長尾能景, 柏崎香積寺に山地を寄進する[[4]2281]
1493	明応2. 3.23	紀伊熊野の御師珍猷, 刈羽郡柏崎などの旦那を売却する[[5]4298]
	8.15	本庄房長, 再び房定と抗争する[[4]1628]
	夏	前権中納言飛鳥井雅康, 房定の招きにより来越する(②237)
1494	明応3. 9. 5	中条定資, 家督を子息藤資に譲る。房定安堵する[[4]1852]

	9. 8	房定, 魚沼郡の諸氏に関東出陣を命じる[[5]3577]
	9.2	房定, 青芋1駄あたり20文の関銭徴収を定める(②393)
	10.17	越後守護上杉房定死去。房能嗣ぐ(②237・537)
1495	明応4. 5.28	上杉房能, 雲洞庵に免船2艘を安堵する(②728)
	10.15	真誓, 弥彦神社に奉納するため, 刈羽郡大久保の鋳物師に椎鐘を造らせる[[5]2894]
	12.26	古志郡の長尾孝景, 隠居して家督を房景に譲る[[3]220・221]
1496	明応5. 1.20	長尾顕景, 浦佐普光寺の別当職を安堵する[[5]2598]
	②.28	房能, 耕雲寺領を安堵する[[4]2343]
	②.	波多岐莊四日町の神宮寺毘沙門天背板を修造する[[5]2493]
	7.1	房能, 本成寺日将死去により後住に日現を認める[[5]2675]
	8.19	房能, 鶴川莊安田氏の知行を安堵する[[4]1552]
	8	弥彦神社に鰐口が奉納される[[5]2814]
1497	明応6. 4.18	中条定資, 奥山莊関郷段銭を納入する[[4]1855]
	4.2	飯尾宗祇, 京をたつて越後に向かう[越佐史料3]
	6.15	頸城郡松茸神社社殿建立される[[5]4364]
	7. 5	房能, 文明末年の検地に基づき, 古志長尾氏に役銭納入の帳簿(国衙領)を作成させる(②538)
	7.21	長尾能景, 上野国から曇英慧応を招いて林泉寺を開く(②437)
	9.26	房能, 古志郡普濟寺を房定未亡人に安堵する[[3]97]
	12.13	水原憲家, 所領を子景家に譲る[[4]1524]
	12.21	夏戸の志駄景義, 所領を子春義に譲渡する[[5]3570・3571]
	12.29	房能, 色部昌長の所領を安堵する[[4]1048・1049]
1498	明応7. 4.	越後商人の京へ送る青芋荷, 近江坂本で差し押さえられる(②394)
	5.13	房能, 郡司不入を厳格に処理するよう命じる(②271)
	6. 2	房能, 発智・月岡氏の山論を裁可する[[4]1635・1639]
	⑩.10	能景, 磐城八槻神社に過所を与える[[5]3753]
1499	明応8. 7.	能登の中居鋳物師, 能生白山神社の泰平寺の梵鐘を鋳造する(②302・370)
	11.17	越後府内の至徳寺, 十刹位を許容される[越佐史料3]
1500	明応9. 7. 5	飯尾宗祇, 越後に赴くため近衛政家に別れを告げる[越佐史料3]
	7.3	芦名盛高, 小田切氏に小河莊内を恩賞として与える[[4]1650]
	10.16	色部昌長, 段銭を収納する[[4]1050]
1501	文亀1. 4.19	本間直泰, 佐渡一宮慶宮寺に大般若經を納める[[5]3096]
	8. 7	幕府, 京都北野社領鶴川莊・上郷上小島保の年貢納入につき, 守護に督励させる[[5]4235]
	9. 1	連歌師宗長, 在越の飯尾宗祇を訪ねる(②382)
	12.1	越後大地震。余震5～6日続く(②382)
		◇越後国大雪(②382)
1502	文亀2.12. 7	長尾輔景, 幕臣伊勢家領頸城郡松山保の代官職を主張する。この日, 幕府, 伊勢家の支配を認める[[5]3894～3898]
1503	文亀3. 4.16	西国33所順礼・越後国住人同行4人, 大和葛城郡当麻寺に巡礼札を納める(②440)
	5.26	房能, 水原景家の所領の検断不入を承認する(②277・538)
	8. 8	伊達尚宗, 芦名盛高との鉾楯抗争を伝える(②562)
1504	永正1. 7.19	房能, 関東管領上杉顕定を助け上野に出陣する[[5]2827]
	10. 3	房能・顕定, 上杉朝良を武蔵立河原に破る[越佐史料3]
1505	永正2. 1.	佐渡八幡宮神主, 社領の上物を注記する[越佐史料3]
1506	永正3. 8. 1	上野家成, 所領波多岐莊内を子息菊寿丸に譲る[[4]1586]
	9.19	長尾能景, 越中の一向一揆と戦い, 婦負郡般若野で戦死(②482・549), 水原景家おなじく戦死する[[4]1528]
1507	永正4. 4. 5	越中放生津の英全・河内国永川ら, 頸城郡松茸社に参籠する(②410)
	8. 7	房能, 守護代長尾為景に攻められて頸城郡松之山の天水で自刃する。為景, 上杉定実を守護に擁立(②246・294・540)

		9	本庄時長・色部昌長・竹俣清綱ら、定実・為景と抗争。阿賀北の国人二派に分かれ、永正の乱はじまる(②540)
		11.21	定実、本庄・色部・竹俣氏討伐の功により、築地資茂・中条藤資に恩賞を与える[[4]1320・1423]
		12.13	定実、安田但馬守に恩賞を与える[[4]1491]
		12.3	定実、長尾房景・志駄義春に知行を安堵する[越佐史料3]
1508	永正5. 2.		竹俣・色部氏ら、芦名盛隆を仲介とし、上杉顯定に援を求める[[4]1437・1052]
		5.24	色部要害、落城する(②540)
		6.29	為景、岩谷城に竹俣清綱を攻める[越佐史料3]
	11. 6		幕府、定実を越後守護と認め、為景を守護代とする(②540)
1509	永正6. 1.28		本庄時長没する[越佐史料3]
		7.28	顯定・憲房父子、越後に出て、府内を攻め落とす(②540)
		8	定実・為景、越中に逃れる(②540)
		8	小河莊日野大福寺に聖観音像奉納される[[5]2931]
		9.11	出羽の伊達尚宗、為景と結び、越後に侵入する(②541)
1510	永正7. 4.		定実・為景、越中から佐渡、ついで蒲原津・寺泊に進出、顯定方に反撃する(②541)
		6.2	顯定、上田莊長森原で敗死する(②273・542)
1512	永正9. 1.23		長尾平六(俊景)、長尾房長と戦い敗死する[[3]103]
1513	永正10. 4. 8		鏡伝、薬師如来像を制作し、古志郡村松円融寺に奉納する[[5]2418]
		7	為景、定実と対立し春日山に帰城。宇佐美房忠、定実の意を受け、反為景工作を行う(②543)
	8. 1		為景、中条藤資と誓書を交わす(②543)
1514	永正11. 1.16		定実方の八条・石川・飯沼ら、上田莊六日市で為景方の長尾房長・同房景・中条藤資らと戦い敗死する(②254・544)
		5.26	宇佐見房忠、頸城郡岩手で為景に敗死する(②544)
		12.16	宝印長快、頸城郡宝蔵院に石塔を建立する[[5]4389]
1515	永正12. 3.12		山城国北白川の住人渡辺源四郎、東国一見の旅の途中、頸城郡松茸社に参籠する(②408)
		3.16	頸城郡白山社宝殿が建立される[[5]4359]
1516	永正13.		◇為景、越中侵攻。神保・椎名氏らと戦い敗退する(②549)
1517	永正14. 9. 6		為景、魚沼郡雲洞庵に対して、免船および脇舟の特権を安堵する(②548)
1518	永正15. 4.24		頸城郡橋立村七所明神社に鰐口が奉納される[[5]4362]
		7.1	能登守護畠山勝王、為景に越中出陣を求める[[4]1325]
1519	永正16. 2.26		為景、島津貞忠と和議を結ぶ[[3]163]
		10.13	頸城郡吉尾の法興寺に鰐口が奉納される[[5]4386]
		10	為景、越中に守護代神保慶宗を攻める(②550)
		12	長尾景行、長尾房景と五十嵐豊六の五十嵐川漁業相論を仲裁する(②272・555)
1520	永正17. 5.28		古志郡釜沢の満願寺に観音像が奉納される[[5]2420]
		6.13	為景、越中に出陣し、ついで境川に神保慶宗を攻める(②482・551)
		12.21	為景、越中新庄で戦い、神保・遊佐・椎名・土肥氏ら数千人を敗死させる(②551)
1521	大永1. 2.13		為景、能登守護畠山義総と結ぶ(②550)
		2	為景、一向宗を禁じる(②482・551)
	4. 3		為景、越中二上城が包囲され、房景に出陣を要請する(②551)
	12. 7		畠山尚順、為景を越中新川郡の守護代に任じる(②551)
			◇伊達植宗、越後と羽前の国境の大里峠に新道を切り開く(②378)
1523	大永3. 4.24		熊野新宮の山本光頼、山東郡除・白鳥一円の熊野社旦那を那智山花蔵院に売る[[5]4299]
	6. 3		幕府、足利義澄十三回忌仏事のため、越後に国役を賦課する(②545)
1524	大永4. 4.		為景、高梨氏を援け信濃に出兵する(②549)

	11.23	相模小田原の北条氏綱、為景にみかん・酒を贈る[[3]78]
1525	大永5.⑪.26	為景、このころから伊勢御師出身の蔵田氏を挙用し、領内の青苧取りきを管掌させる(②548)
1526	大永6. 1.11	新津景資・豊島資義・千田憲次、為景に服属を誓う(②557)
	1.16	古志郡●脱莊の円融寺に十二神将奉納される[[5]2417]
	1.18	色部昌長・本庄房景、為景に服属を誓う(②557)
	1.23	黒川盛重、為景に服属を誓う(②557)
	5.1	蒲原郡築地庵に石塔建立される[[5]4412]
	9. 5	中条藤資、為景に服属を誓う[[2]237]
1527	大永7. 3.11	岩船郡諸上寺、寺領の年貢納帳を作成する[[4]2345]
	6.1	三条西実隆、越後の青苧公事の納入を為景に督促する(②548)
	8. 2	弥彦神社、社領を檢地する[[5]2799]
	10.19	長尾房景、自領の段銭を徴収する(②545)
1528	享禄1. 6.12	山吉政久、為景に服属を誓う[[3]238]
	12.12	為景、將軍義晴から白傘袋・毛氈鞍覆の格式を許される。また為景の長子道一、義晴の偏諱を与えられ、弥六郎晴景と名乗る(②553)
1529	享禄2.12.28	為景、「公銭勘定帳」を作成する(②545)
1530	享禄3.11. 6	刈羽郡上条城主上杉(上条)定憲、為景と対立、享禄の乱はじまる(②558)
1531	享禄4. 1.	越後国人衆、軍陣壁書を定め、為景方として連合を形成する(②558)
	8.1	山吉政久、大崎保の御料所年貢の進納について誓約する[[3]240]
	8.2	本庄房長・色部勝長・鮎川清長・小河長基、為景方として連携を誓う(②559)
		◇魚沼郡下船戸に経筒が埋納される[[5]2513]
1532	天文1. 5.10	佐渡畑野熊野社、神田諸役目録を作成する[[5]3090]
1533	天文2.	◇上杉(上条)定憲、再び挙兵、天文の乱はじまる(②560)
	6.24	為景、本成寺衆に恩賞を与える[[5]2688]
	9.26	上条方の松郷・秋山・志駄氏ら、北条で安田景元と戦う(②560)
		◇新津堰一の堰、沢田半左衛門により開発される(③452)
1534	天文3. 5.21	北条輔広・安田景元、上条方と刈羽郡納下で戦う(②560)
1535	天文4. 1.	上条方の長尾房長、魚沼郡下倉城を攻める(②560)
	6.13	為景、宇佐美定満の琵琶島城を攻める[越佐史料3]
	6	上条定憲、色部勝長に蒲原津を守らせる[[5]3471]
	9.16	上条方の阿賀北国人衆、羽前砂越氏に援助を頼む[[5]3627]
	9	長尾房長の兵、蔵王堂を攻める[越佐史料3]
1536	天文5. 8. 3	為景、家督を晴景に譲る(②561)
1538	天文7.	◇定実、養子に奥州伊達連宗の二子時宗丸(実元)を迎えようとはかり、阿賀北衆で抗争がおこる(②562～564)
1539	天文8.11.21	色部勝長、定実の養子に反対する(②562)
		◇本庄房長、中条藤資・伊達氏に敗れ、羽前大宝寺に逃れる(②564)。房長の弟小河長資、本庄城を奪う[越佐史料3]
1540	天文9. 6.20	伊達晴宗、父植宗を幽閉し、時宗丸の越後入国を阻止する。伊達氏天文の乱はじまる(②564)
	9.27	晴景、後奈良天皇から「敵追討」の綸旨を与えられる(②567)
	9	阿賀北衆、一致して中条氏を攻める(②564)
1541	天文10. 8. 2	小河長資・鮎川清長・色部勝長など小泉荘内の諸将、誓紙を取り交わし、連携を誓う(②565)
1542	天文11. 4. 5	定実、引退を希望し、起請文を晴景に差し出す(②565)
	12.24	為景、没する(天文5年説あり)(②562)
		◇佐渡鶴子銀山が開かれる(②762③523)
1543	天文12. 3.20	色部家中、勝長に起請文を差し出す[[4]1089]
		◇晴景、景虎(謙信)を三条城に、ついで栃尾城に入れ、中郡の平定にあたらせる(②567)
1544	天文13. 4.20	晴景、後奈良天皇から「国中静謐」の綸旨を与えられる[[3]776]
	10.1	定実、安田長秀に知行地を恩賞として与える(②562)

1545	天文14.10.	黒田秀忠, 晴景に叛す。景虎, 上郡に帰り, 秀忠と戦う(②568)
1546	天文15. 2.28	黒田秀忠, 景虎に攻められ敗死する(②568)
1548	天文17.12.30	景虎, 晴景と対立する。上杉定実の調停により, この日, 景虎, 春日山に入城し家督を継ぐ(②568)
1549	天文18. 2.16	景虎, 先例により頸城郡瑞麟寺領を郡司不入とする(②569)
	4.27	景虎, 府内大橋の橋銭についての掟を定める(②373・483・578)
1550	天文19. 2.26	越後守護上杉定実没する。継嗣なく, 越後上杉氏断絶する(②569)
	2.28	足利義晴, 景虎に白傘袋, 毛氈鞍覆の使用を許す。景虎, 名実ともに越後国主の地位につく(②569)
	5.13	斎藤朝信, 刈羽郡菊尾寺の寺領を安堵し, 寺社役を勤めさせる[[4]2282]
	6. 5	北条高広, 佐橋荘(北条)諏訪大明神の社殿を造営する[越佐史料4]
	8. 5	北条高広, 北条八幡宮の社殿を造営する[[4]2280]
	12. 3	飯田与七郎, 頸城郡夷守郷上田荘の公田潤役代を納める[[5]3960]
	12	坂戸城主長尾政景, 景虎と対立して抗争する(②569)
1551	天文20. 4. 4	本間高季, 佐渡宿根木の彦衛門に舟宿をあずげる[[5]3156]
	6.2	景虎, 大串某を三ヶ津(蒲原・沼垂・新潟)横目代官職とし, 府内に在勤させる(②578)
	8. 1	長尾政景, 景虎に和を乞う。景虎これを許す(②570)
	8. 8	本庄繁長, 叔父小河長資を攻撃して自殺させる(②566)
	10	鮎川清長, 本庄繁長と抗争する。色部勝長ら仲介して, 小河長資遺族を復帰させ, 繁長・清長・勝長, 互いに誓書を交換する(②566)
1552	天文21. 1.10	関東管領上杉憲政, 北条氏康に圧迫されて越後に逃れ, 景虎のもとに身を寄せる(②571・592・597)
	5.26	景虎, 従五位下弾正少弼となる(②597)
	6.18	奉行人山吉政応, 中条・黒川両氏の境界紛争の調停を色部勝長に依頼する(②566)
	7.16	景虎, 蒲原郡本成寺の寺領を安堵し, 禁制を定める[[5]2678・2682]
	12. 8	景虎, 中条・黒川間の紛争調停のため, 山吉孫四郎を色部勝長のもとに派遣する[[4]1060]
1553	天文22. 2.10	前越後守護代長尾晴景没する[越佐史料4]
	4.2	天台座主堯尊法親王, 景虎に延暦寺大講堂造営の費用を求める[[3]134・135]
	8	北信濃の村上義晴・高梨政頼・井上昌満・須田満国・栗田永寿ら, 武田晴信に攻められ, 景虎に援を求める。景虎, 信濃川中島に兵を出し戦う(第一次)(②593)
	秋	景虎, 上洛して参内し, 天盃・御剣および越後と隣国平定を賞する綸旨を与えられ, 後奈良天皇に忠誠を誓う(②597)
	11.13	景虎, 本願寺証如に貢物を贈り, 一向宗に対する政策を転換する, ついで紀伊高野山に参詣する(②484・598)
	12. 8	景虎, 前大徳寺徹岫宗九から衣鉢法号, 三帰五戒を受け宗心と称する[越佐史料4]
	12.17	上野家成, 魚沼郡波多岐荘上野村の京都御要脚公田段銭を納める(②570) [[4]1598]
	12.下	景虎, 京都から帰国の途につく[[4]1596]
1554	天文23. 3.13	景虎, 信濃笠原本誓寺の超賢に越後移住を勧める[[4]2203]
	3.16	景虎, 大熊朝秀・本庄実乃に上野家成と下平修理の紛争の調停にあたらせる(②570)
	3	景虎, 隠居を表明する[[4]1591]
	9.2	北条高広, 祖父輔広の仏事執行のため, 北条専称寺所領内の陣夫を免除する[[4]2303・2304]
	10.14	景虎, 黒川清実の所領上条の地を郡司不入とする(②578)

1555	弘治1. 1.14	景虎, 上条城に援軍を送り, 武田晴信に通じた北条高広にあたらせる[[4]1568]
	2	大熊朝秀・直江実綱・本庄実乃ら, 刈羽郡に出陣する[[4]1571]
	4.1	景虎, 新寄進として府中称念寺と末寺の寺領を郡司不入とし, 諸役を免除する[[4]2136]
	4.25	景虎, 武田晴信と信濃旭山要害で戦う[[5]3582]
	7.19	景虎, 武田晴信と信濃川中島で戦う(第二次)(②594)
	⑩.	景虎, 信濃善光寺御堂本尊を春日山城下に移し, 善光寺を創る[越佐史料4]
	11	景虎, 長慶寺の天室光育に中条・黒川の境界紛争を調停させる[[4]1905・1932]
1556	弘治2. 6.28	景虎, 天室光育に引退の意向を告げる(②573)
	8.17	政景, 景虎の引退を諫止する。景虎, 意を翻し, 家臣一同連署して起請文を提出する(②573)
	8	大熊朝秀, 武田晴信と通じて越中に走る(②485)。会津芦名盛氏, 晴信と結び, 小河荘小田切安芸守を越後に侵入させる[[5]3755]
	8.23	上野家成ら, 頸城郡駒帰で大熊朝秀を破る。朝秀, 甲斐へ落ちのびる(②573)
	12.22	阿佐美彦六, 頸城郡真砂保の土地台帳を作成する[[5]2762]
1557	弘治3. 1.20	景虎, 武田晴信滅亡・信濃平定の願文を信濃更科八幡宮に納める[越佐史料4]
	2	武田晴信, 信濃葛山城を攻略する[[4]2044]
	3.1	景虎, 信濃に出陣し, 色部勝長に参陣を命じる[[4]1058・2044 [5]4156]
	4. 7	景虎, 刈羽専念寺領を郡司不入とする[[4]2309]
	4.21	景虎, 信濃善光寺平に着陣し, 色部勝長の参陣を促す[[4]1059]
	5.1	景虎, 信濃小菅山元隆寺に戦勝の願文を納める[越佐史料4]
	8.29	景虎, 晴信と信濃上野原に戦う(第三次)(②594)
	10.18	景虎, 涌光寺領の頸城郡夷守郷榎井保の地を広泰寺に寄進し, 郡司不入・諸役免許とする[[5]3413]
1558	永禄1.⑥.14	本庄繁長, 色部勝長と協力を誓う[[4]1119] ◇景虎, 一向宗本誓寺超賢を加賀から招き, 春日山近く佐内に寺地を与える(②485)
1559	永禄2. 3. 2	景虎, 黒川孫五郎の所領を郡司不入とする[越佐史料4]
	4. 3	景虎, 5000人の家臣を従え, 上洛の途につく(②598)
	5. 1	景虎, 参内して天盃・御劔を与えられる(②598)
	5	この月, 晴信の軍勢越後に侵入する(②594)
	6.26	足利義輝, 景虎に塗輿など格式を許し, 関東管領上杉憲政の補佐と信濃諸将の保護を求める(②599)
	6.29	景虎, 近江坂本で腫物を患う。義輝, 景虎に鉄砲と玉薬調合書を贈る(②586・599)
	6	関白近衛前嗣, 越後に下ろうとし景虎と誓書を交わす[[3]969・970・974・976・987・989～991]
	9	晴信, 再び越後に侵入する(②594)
	10～11.	景虎, 京都から帰国する。諸将太刀を贈り, これを祝う(②572・583)
1560	永禄3. 3.26	景虎, 晴信と結んだ神保長職を討つため, 越中に出陣する(②613)
	5. 9	栃尾衆の大関定憲・金井修理亮ら, 本庄玖介・宇野左馬允に軍役・要害普請などの精励を誓う(②583)
	5.13	景虎, 越後府中の住人に5か年間諸役・地子銭を免除する(②391・406・578・579)
	5	景虎, 居多神社へ制札を与える[[4]2126]
	6	景虎, 内裏修理料として越後の御料所を献納する[[3]773]
	7. 2	権大納言広橋国光, 勅を奉じて, 速水有益を越後に派遣し, 景虎に金欄と引合を下賜する[[3]773]
	8.25	景虎, 関東出陣にあたり, 留守中の掟を定め, 検見3人を置き, 蔵田五郎左衛門に府内を監察させる(②580・583・600)

		8.29	景虎、上野に出陣する。厩橋で越年(②600)
		9.19	近衛前嗣、西洞院時秀を従えて越後に来る。景虎、府内至徳寺を宿舎にあてる[越佐史料4]
1561	永禄4.1~3.		景虎、「関東幕注文」を作成。上野・下野など7か国255人の反北条方諸将を結集する(②601)
		2.25	景虎、蔵田五郎左衛門に府内の火の用心を命じる(②580)
		3.11	景虎、上田荘・妻有荘・藪神の水損に対し、徳政を実施する(②581)
		3	景虎、上杉憲政を奉じ、越後・関東の将士を率いて小田原城を攻める(②601)
		3	景虎、刈羽郡柿崎町の問屋に制札を発す(②370・373)
	③.16		景虎、憲政から上杉氏の名跡を譲られ、関東管領となる。名を政虎と改め、鎌倉鶴岡八幡宮でその儀式を行う(②569・601)
	4.5		上杉政虎、府中の住宅を板屋にすること命じる(②579)
		4.27	政虎、蔵田五郎左衛門に、府内・御蔵の警備を命じる[[4]2139]
	5.1		政虎、鎌倉で能楽を催す[[4]2139]
	6.2		義輝、僧一舟を政虎に遣わし戦勝を賀す[[3]952]
		6.28	政虎、厩橋を発し春日山に向かう[越佐史料4]
		8.29	政虎、会津芦名氏・羽前大宝寺氏の応援を得て、斎藤朝信・山本寺定長・蔵田五郎左衛門を越中に派遣する(②614)
		9.1	政虎、信玄と信濃川中島で戦う(第四次)(②596)
		9.13	政虎、色部勝長・安田長秀ら家臣の多数に感状を発給する(②596)
		11	政虎、下総古河城にいる近衛前嗣から救援要請を受け、関東に出陣する(②602)
		12	政虎、足利義輝の偏諱を受けて輝虎と改名する(②569)
1562	永禄5.1.26		上杉輝虎、関東往来者の坂戸城大手の通行を止め、直路を通行させる[[3]267]
	2.下		輝虎、近衛前嗣・上杉憲政を下総古河城から上野厩橋城に迎える[越佐史料4]
		3.15	輝虎、金津新兵衛尉らに春日山城・府内・善光寺門前を警備させる[[5]3938]
		4	輝虎、憲政・前嗣とともに越後へ帰る[越佐史料4]
	5.3		輝虎、古志郡の椿沢寺領を守護不入とする[[5]2714]
	7.下		近衛前嗣、越後から京都に帰る(②602)
		9.13	輝虎、魚沼郡の上弥彦神社領を郡司不入地とし、末社に土地を寄進する[[5]2450]
		12.18	輝虎、深雪をおして上野沼田に入る[[5]3188]
		12.2	安房の里見義堯のもとに身を寄せた関東公方足利藤氏、輝虎の出陣を聞き、古河城の回復をはからせる[[5]3737]
1563	永禄6.7.16		色部勝長、古色部・荒川保の段銭を徴収する[[4]1067]
		7.18	輝虎、刈羽飯塚八幡宮別当極楽寺および出雲崎の薬師寺に命じて、北条氏康・武田信玄を調伏させる[[4]2312 [5]2646]
		8.18	比叡山の正覚坊重盛、輝虎のために祈祷し巻数を送る[[3]674]
		8.27	天台座主堯尊法親王、延暦寺三院の大衆に、輝虎の武運長久を祈らせる[[3]557]
		12	色部勝長と平賀重資、小旗のことで争う[[4]1113~1115・1117・1190・1694]
		12	刈羽郡鯨波の妙智寺、輝虎から制札を得る[[5]4387]
	⑫.		輝虎、関東に出陣し、下野佐野城を攻撃する[越佐史料4]
1564	永禄7.2.17		輝虎、佐野昌綱を攻め、長尾房丸を昌綱の養子とすることを誓約させる[[4]1054・1607 [5]2478・3774・3861・3908・3982]
		2.29	輝虎、越後の留守将長尾政景に諸普請および越中への計策を指示する[[3]871]
		3.1	足利義輝、大覚寺門跡義俊を越後に遣わし、北条氏康・武田信玄との講和を勧める[[3]954・越佐史料4]
	4.9		輝虎、越後に帰る[越佐史料4]
		4.2	輝虎、柏崎町の再興のため制札を出す(②359・368・391・580)

	5.13	輝虎,刈羽郡飯塚八幡宮に対し,信玄・氏康滅亡の五壇護摩を要請する[[4]2313]
	5	信玄,芦名盛氏と連携し信濃野尻島に侵入,盛氏も越後菅名荘に侵入する[[4]1066・越佐史料4]
	6.24	輝虎,弥彦神社に願文を納め信玄・氏康の滅亡と越中平定を祈る(②614)
	7.2	輝虎,朝廷に永禄5年分の御料所進納分として黄金を献じる[越佐史料4]
	7.5	長尾政景,野尻池で溺死する(②572)
	7.29	飛騨の諸将相争い,江馬輝盛,輝虎に援を求める。輝虎,越中の諸将に輝盛を助けさせ,信濃に入り信玄を牽制する[越佐史料4]
	8.1	輝虎,信玄の撃滅を信濃更科八幡宮に祈る[[3]259]
	8.3	輝虎,信濃川中島に出陣する[[5]3257]
	8.4	足利義輝,上杉・北条間の和睦を勧めるが,輝虎これを断る[[5]3332]
	8.24	輝虎,蔵田五郎左衛門に府内・春日の火の用心を命ずる[[4]2116]
	10.1	輝虎,信濃飯山城を修理して越後に帰る[越佐史料4]
	10.24	輝虎,下野佐野昌綱を討つため上野沼田城に入る[越佐史料4]
	10.27	輝虎,佐野昌綱を破る[越佐史料4]
	11.7	織田信長,子息を輝虎の養子とすることを承諾する(越佐史料は元亀3年とする。実現せず)[[3]382]
1565	永禄8.2.24	輝虎,関東に出陣する[[5]4022・越佐史料4]
	3.23	足利義輝,再度上杉・北条の和を勧める[[3]763・953]
	3.27	本願寺,輝虎を共通の敵として信玄と盟約を結ぶ(②614)
	6.16	越前朝倉景連ら,直江実綱に京都の情勢を伝え,輝虎の加賀出陣を求める[[3]400・401]
	6.24	大覚寺門跡義俊,輝虎に足利義輝の暗殺を報じ,来援を求める[[5]3740]
	7.17	輝虎,河田長親を上野沼田城に移らせる[[4]2265]
	7.24	輝虎,自ら信濃出陣の意を示して信玄を牽制する(②597)
	8.5	一乗院覚慶(足利義昭),輝虎に足利氏の再興を委嘱する[[3]759・836[4]2127 [5]3738]
	11.21	輝虎,魚沼郡浅貝に着陣する[[5]3841]
1566	永禄9.2.21	輝虎,印判の用例を指令する[[5]3683]
	3.1	足利義昭,輝虎に北条氏と和し,上洛することを求める[[3]834・835・838・855 [4]1063・1064]
	3	輝虎,千葉胤富の属城下総臼井城の原胤貞を攻め,千葉・北条の軍と戦う[[3]706・越佐史料4]
	5.9	輝虎,北条氏康との和平と京都・鎌倉両公方の擁立実現を神仏に祈る(②604)
	5.13	輝虎,柏崎町に諸役を免除し,発展をはかる[[3]588]
	7.1	足利義昭,輝虎に北条氏との和睦を勧める[[5]3703]
	9.13	義昭,大覚寺義俊に上杉・北条間を調停させ,輝虎の参陣を求める[[3]955]
	9.27	輝虎,常陸佐竹義重との旧交復活を,江戸重通・太田資正らに斡旋させる[[3]1017・越佐史料4]
	12.2	輝虎,上野沼田城に入り,佐竹義重などに参陣を促す[[5]3296・越佐史料4]
1567	永禄10.2.24	義昭,輝虎に越後下向の意向を伝える[[3]956・957・1012]
	5	輝虎,佐野城を色部・吉江・萩原などに守らせる(②605)
	7.1	義昭,輝虎に兵糧を求め,甲・相両国と和睦し,上洛することを求める[[3]389・402・958・959 [5]3314]
	10	氏康・信玄,上野厩橋城を攻め,輝虎も対抗して出陣する(②605)
1568	永禄11.1.	信玄,輝虎の上野沼田在陣の隙をつき,本庄繁長と結ぶ(②574・615)

	3.25	輝虎, 本庄繁長の離反を聞き, 越中放生津から急ぎ帰国する(②615)
	4	今川氏真, 越・相・甲の和睦の斡旋を申し入れる[[3]565]
	5. 4	輝虎, 柿崎景家・直江政綱などに本庄繁長を攻撃させ, 近隣の諸将の協力を求める[[4]2324]
	7.29	信長, 輝虎に信玄と和睦し, 天下統一に協力することを望む[[5]3438]
	8.1	輝虎, 信玄の信濃長沼在陣に備え, 養子顕景(景勝)らを頸城郡関山城に派遣する(②584・615)
	9. 8	本庄方の羽前大宝寺義増, 輝虎に和を求める[[3]398]
	10.13	信玄, 兵糧を本庄繁長に贈り, 明春の戦略を相談する[[5]3592]
	11. 7	輝虎, 本庄城を攻囲する(②574・615)
	11.3	中条藤資, 石塚玄蕃允の裏切りを輝虎に報じる。輝虎, 藤資の忠節をほめ, 誓書を送る(②577)
	12. 9	北条氏康, 信玄と対立し、輝虎との和睦を望む[[5]3298・3461・3462・越佐史料4]
	12.27	常陸佐竹義重, 信玄の駿府攻略を輝虎に伝え, この機に乗じて関東への出陣を勧める(②606)
	12.28	芦名盛氏・伊達輝宗, 輝虎と本庄繁長の間の講和を仲介する[[5]3666]
1569	永禄12. 1. 7	氏康二男北条氏照, 再び輝虎に講和を求める[[3]381・395・396・731]
	1.13	大川長秀, 大宝寺義増の兵とともに出羽藤懸城を攻める[[3]392・393]
	1	三瀨政長・大川長秀, 出羽藤懸城を攻め, 敗退する[[4]2048]
	1	輝虎, 北条氏との講和を決意する[[4]2048]
	2. 2	北条氏康の臣遠山康光・康英父子, 越相講和の条件を上野金山城の由良成繁と協議する[[3]493]
	2. 6	輝虎, 地下人に対し, 鎧・縄・鉈・鋏など参陣の際の装備基準を示す(②584)
	2. 6	氏康・氏政父子, 使僧天用院を上野沼田に送り, 越相講和を進めさせる[[3]413・429]
	2. 8	足利義昭, 智光院頼慶を輝虎に遣して, 信長とともに越・甲の和睦を斡旋する[[3]386・962]
	2.晦	飛騨三木良頼, 輝虎と越中椎名康胤との調停をはかる[[5]3704]
	3.14	輝虎, 北条氏との同盟(越相同盟)を承諾する(②574)
	3.26	本庄繁長, 伊達輝宗・芦名盛氏を通じて, 輝虎に和を求める(②574・615)
	4. 2	輝虎, 本庄城から府内に帰る[越佐史料4]
	4. 7	義昭・信長, 再び輝虎に信玄との和睦を勧める[[3]383・963・964]
	4.23	輝虎, 山吉豊守に北条氏の臣遠山康光と武蔵松山城の引渡しなどを協議させる[[3]579・1014]
	4.27	氏康, 古河公方に足利義氏を推し, 輝虎に上野を分与する(②607・608)
	⑤. 3	輝虎, 氏康の使僧天用院と府内で会見する[[5]2836・3319・4132]
	⑤.20	輝虎, 伊勢大神宮遷宮費のため棟別銭を越後国内に課す[[5]4197]
	6. 9	氏康父子, 輝虎に氏政の子国増丸を養子とすることを誓約。越相同盟成立する(②608)
	6.1	北条氏政, 輝虎に北条高広の赦免を求め, 輝虎, 高広に氏政を助けさせる[越佐史料4]
	8	本庄宗綏・山吉豊守・新発田忠敦・直江景綱ら, 中条・黒川の紛争の調停にあたる(②577)
	8.2	輝虎, 越中に入り, 新庄・金山などを陥し入れる。また留守の春日山城に地下鎧を集めるよう命じる(②590・615)

	10.上	越中神保覚広の家臣、反逆する。輝虎、これを討つため越中に出陣する[[3]682・越佐史料4]
	10.16	北条氏政、輝虎への養子を弟の三郎に変更する(②610)
	10.27	輝虎、越中から春日山に帰陣する(②615)
	11.2	輝虎、上野沼田に着陣、関東諸将の参陣を促す[[3]567・698 [5]3665・4078・越佐史料4]
1570	元亀1. 1.11	輝虎、氏康に下野佐野城攻撃を伝え、武蔵岩槻城の還付を求める(②610)
	2.18	氏康・氏政、誓書を輝虎に送り、武蔵岩槻の返還と養子の出立を誓う(②610)
	3. 5	輝虎、氏康・氏政に、養子には姪を嫁すことを誓約する[越佐史料5]
	4.25	輝虎、養子三郎に景虎と名乗らせ、姪(長尾政景の娘)を妻とさせる(②611・631)
	6.24	出羽大宝寺義氏、大川長秀と戦い、本庄繁長を介して輝虎に調停を依頼する[[5]3628・3629・越佐史料5]
	7	足利義昭、越・甲講和を勧める[[4]2209]
	8. 4	信玄が伊豆に侵入したため、北条氏政、輝虎に後詰を依頼する[[5]4076]
	8.22	輝虎、徳川家康と結ぶ[[5]4323]
	9.2	輝虎、信玄の上野出陣に対抗して、越山し、このとき中風を発する[[5]3389]
	9	本願寺と織田信長の間に、石山合戦はじまる(②486)
	10. 8	家康、輝虎に信玄と絶ち、信長との同盟を勧める[[3]380・391・910・933]
	12	輝虎、出家し謙信を名乗る(②569)
1571	元亀2. 1.	信玄、駿河深沢城の北条綱成を攻める。氏政、上杉謙信に越山を要請する[[5]4092・越佐史料5]
	2.27	謙信、長尾顕景を代理として上野沼田へ派遣する[[5]3980・3987・越佐史料5]
	3	謙信、越中に出陣し椎名康胤を攻める。富山城以下数城を陥れ、春日山に帰る(②615)
	4.17	謙信、伝馬宿送の印判を定める[[5]2816]
	4.28	謙信、氏政・信玄の関東出陣を聞き、栗林政頼に關越国境の警戒を命じる[[5]3971]
	5. 2	謙信、大石芳綱・栗林政頼に關越国境の魚沼郡浅貝に寄居城を築かせる[[5]3985]
	8. 1	謙信、家康の提携申入れを承諾し、誓書を交換する[[5]4191]
	8. 6	謙信、色部顕長に恩賞として本庄繁長と同じ城中座次を与える[[4]1683]
1572	元亀3. 1.15	北条氏政、謙信との同盟を破棄し、信玄と結ぶ[越佐史料5]
	①. 6	謙信、上野石倉城を陥れ、この日、信玄と上野厩橋付近の利根川に対陣する[[5]2555・3768]
	2.16	謙信、北条軍の上野厩橋占拠に対抗し、上田衆を上野沼田城へ派遣する[[5]3407]
	4.16	織田信長、越・甲・相の和議を斡旋する[[5]4247]
	5.24	鯨坂長実ら、謙信に加賀の一向一揆と越中椎名康胤の連携を報じ、出兵を求める[[3]403]
	8.18	謙信、越中新庄に出陣し、富山城の一向一揆を攻める[[5]2834]
	11.2	信長、謙信とともに信玄を攻撃することを誓う(②616)
1573	天正1. 1.	謙信、信長の勧めで越中椎名康胤らを許し、富山城を接收、守備兵を置き帰国する(②617)
	3	越中椎名康胤、また謙信に離反したため、謙信、富山城にこれを攻撃する(②617)
	4.21	謙信、越中から春日山城に帰る(②617)
	8.1	謙信、越中に向一宗徒と戦い、進んで加賀朝日城を攻める(②617)

	8.21	謙信, 加賀から帰国し, 関東出陣をはかる[[5]2770・3444・越佐史料5]
1574	天正2. 1. 9	謙信, 1月18日に越山することを告げ, 家康・信長の来援を求める[越佐史料5]
	2. 5	謙信, 上野沼田城に入り, 家康と策応して武田勝頼と戦おうとする[越佐史料5]
	3.11	謙信, 紀伊高野山無量光院と師檀の契約を結び, 将士および分国の師檀契約もこれに准じさせる[[5]4290]
	4.13	謙信, 北条氏政と利根川に対陣し, 上野金山城の由良成繁を攻撃する[[5]3465]
	5.14	謙信, 河隅忠清・庄田隼人に越中境海岸を守備させる。また直江景綱・山吉豊守に春日山城の修築を命じ, 実城・二ノ郭・三ノ郭に堀をめぐらせる[[5]3863]
	5.24	謙信, 越後への帰国にあたり武蔵羽生城将菅原左衛門佐らの戦功を賞し, 秋の再出馬を約す[越佐史料5]
	6. 3	謙信, 山田修理亮の知行地を郡司不入とする[越佐史料5]
	6.2	謙信, 吉江景資の子景泰を中条藤資の後嗣とし, その軍役を定める(②585)
	8. 3	謙信, 氏政が上野厩橋城を攻撃すると聞き, 関東に出陣する[越佐史料5]
	9	大見安田氏, 給分帳を作成する(②586)
	10. 1	謙信, 刈羽専念寺領を郡司不入地とする[[4]2310]
	10	謙信, 里見・北条対陣の報を受け, 里見氏の後詰のため越山, 12月帰る[[5]3839]
	12.中	謙信, 春日山城に帰る[[5]3724]
	12.19	謙信, 紀伊高野山無量光院清胤を師とし, 護摩灌頂を執行, 法印大和尚となる[越佐史料5]
1575	天正3. 1.11	謙信, 養子の顕景を景勝と改名させ, 弾正少弼の官途を与える[越佐資料5]
	2.16	謙信, 国内諸将の軍役を定める(②585)
	4.24	謙信, 北条氏政の撃滅を多聞天に祈る[[3]887 [5]2600]
	6.13	本願寺顕如, 頸城郡浄興寺の大坂石山籠城の労をねぎらい, 謙信に援助を依頼する[[4]2131]
	6	謙信, 和田六右衛門を頸城郡荒井町問屋に任じ(②376), 伝馬宿送役勤務を命じる(②577)
	7	謙信, 紀伊高野山に一院を再興して菩提所とすることを誓約, 剃髪の披露として黄金を寄進する[[3]848・849]
		◇このころ, 越後の本願寺門徒, 摂津の石山合戦に参加する(②488)
1576	天正4. 3.	謙信, 越中日宮城主神保長職の求めにより, 越中に出陣する[越佐史料5]
	4	織田軍, 石山本願寺を包囲し, 兵糧攻めをはじめる(②486)
	5	足利義昭, 三宝院義堯に託し, 謙信に武田・北条二氏と和し, 足利氏の再興を図らせようとする[越佐史料5]
	5	謙信, 本願寺顕如(光佐)と連携する(②618)
	6	安芸毛利輝元, 謙信に義昭のために京都を回復するよう望む。謙信, これを承諾し, 越前・加賀の一向一揆とともに上洛することを報じる(②618)
	8. 2	毛利輝元, 兵船を大坂に進めて本願寺を助け, 謙信に出兵を求める[[3]388・673]
	8	謙信, 越中梶尾・増山の二城を陥れ, 湯山城を包囲し, 飛騨口に二城を築く(②618)
	12	謙信, 能登を制圧して, 七尾城を攻囲する(②618)
		◇謙信, 越中に制札を掲げる(②619)
1577	天正5. 3.18	謙信, 分国中に関東出兵の陣触れをする[[5]2839・3778]

	3.27	義昭・輝元、謙信に信長の紀伊雑賀攻めの隙をつき、京都に出兵することを求める[[3]767・944]
	4	謙信、能登富木・穴水などに守兵を置き、越後に帰る((2)618)
	⑦.	謙信、越中に出陣する((2)618)
	9.15	謙信、能登七尾城を陥れる((2)618)
	9.23	謙信、加賀湊川で信長軍と戦う((2)619)
	9	山吉氏、三条領闕所帳・三条衆給分帳を作成する((2)586)
	10.25	謙信、能登諸城に制札を掲げる((2)620)
	11.16	謙信、島倉泰明に能登珠洲・鳳至郡内の所領を宛行い、軍役を定める((2)620)
	12.18	謙信、能登から春日山城に帰る[越佐史料5]
	12.23	謙信、上杉家中の名字尽手本を作成する[[3]886]
1578	天正6. 1.19	謙信、関東出兵の陣触れをする((2)620)
	2	謙信、京都から画工を招き、寿像を描かせる((2)625)
	3.13	謙信、死去する((2)592・631)
	3.24	上杉景勝、春日山城の実城に移る。謙信の後継者の座をめぐり景虎と対立、家臣団分裂し、御館の乱起こる((2)632 ③195・646)
	3.28	三条城将神余親綱、景勝に忠誠を誓う[[5]3688]
	3	会津芦名氏の兵、越後に侵入する[平等寺薬師堂墨書]
	4.2	村上城将本庄全長(繁長)、景勝に忠誠を誓う[[5]3689]
	4.晦	織田信長、河田長親に内応を誘う((2)634)
	5. 3	飯田長家・河隅忠清、春日山城の金蔵の黄金の数量を調査する[[5]3326]。金蔵の金27,140両余にのぼる((2)723)
	5. 6	栃尾城将本庄秀綱、与板を攻撃。斎藤朝信、与板方を救援する[[3]488 [5]4238]
	5.12	栃尾・下田の兵、芹河を攻撃。与板からも出陣し戦闘となる[[3]488]
	5.13	景虎、前関東管領上杉憲政の府中御館城へ逃れる((2)632)
	5.24	会津芦名氏の家臣小田切治部少輔・小沢大蔵、景虎に味方し、栃尾城将本庄秀綱・三条城将神余親綱と連携し、菅名荘に侵入する((2)634)
	5.27	小森沢政秀、信濃飯山に出兵する[信濃史料補遺]
	5.下	武田勝頼、景虎の要請により信越国境に出兵する((2)635)
	5	坂戸城将深沢利重ら、上野国猿京に出陣し、北条勢と戦う[[5]3277]
	5	景勝、荒川館を攻撃する[[5]3435]
	6.上	景勝、武田勝頼と同盟、金500両と東上野を勝頼に与えることを約す((2)635)
	6.11	景勝・景虎の軍、大場・居多浜・府内で戦い、景虎方の上杉景信討死する[越佐史料5]
	6	景勝、魚沼郡堀之内の宮氏に下崎から発する舟1艘の舟役を免除する((2)728)
	7.23	武田勝頼、越後府中に在陣し、景勝・景虎の争いを調停する((2)635)
	8.2	武田勝頼の斡旋により、景勝・景虎の和睦が成立する((2)635)
	8.22	景勝、故柿崎景家遺臣の忠信を賞し、孫千熊丸(憲家)に柿崎氏の名跡を返す[越佐史料5]
	8.22	景勝、能登国塩津の四郎右衛門尉に対し、正院出湊の船1艘の諸役を免許する((2)398・730)
	8.28	景勝・景虎の和睦が破れ、武田勝頼、甲斐に帰る((2)635)
	9. 2	上野厩橋城将北条景広、越後刈羽郡北条城に入り、景虎方に加担する[越佐史料5]
	9.中	景虎、東条惣介・神余親綱に、蒲原郡の城米3000俵を急ぎ届けるよう命じる((2)637)
	9.下	栃尾城将本庄秀綱、景虎方の加勢として御館城に入る((2)637)
	9	武田軍、魚沼郡妻有に入り景勝を支援する((2)637)

		9	会津芦名氏の家臣金上盛備・小田切弾正忠・同孫七郎、蒲原郡安田城を攻める(②636)
		10	出羽伊達輝宗、越後に侵入する[越佐史料5]
		10	刈羽郡北条城の北条景広、御館城に入る(②637)
		10.1	景虎、鎌倉鶴岡八幡宮に春日山奪還を祈願する書を送る[[5]4070]
		10.24	景勝、御館城を攻撃。景虎方の本庄秀綱、敗れて栃尾に帰る(②637)
	11. 2		武田勝頼、信濃から越後への粮米の運送を止める[辛丑訪文書]
		12	景勝と武田勝頼の妹菊姫との婚約がととのう[[3]662]
1579	天正7. 2. 1		景勝、御館城を攻撃。景虎方の北条景広負傷する(②637)
		3.17	御館城落城する。上杉憲政は殺され、景虎は鮫ヶ尾城に逃れる(②638)
		3.24	景虎、鮫ヶ尾城で自刃する(②638)
		4	築地資豊、景虎方の黒川清実を鳥坂城に攻略する(②638)
		6	伊達輝宗の仲介により、景勝、黒川清実を許す(②638)
		10.2	武田菊姫、景勝に嫁す[越佐史料5]
1580	天正8. 2.17		景勝、柏崎町に掟を発する(②704・711)
		3	景勝、魚沼郡三佐島郷に2年間諸役免除の触を出す(②640・705)
	③.24		織田信長の臣柴田勝家、加賀に入り、越中在陣中の河田長親を誘う[越佐史料5]
	③.		北条氏政の兵、魚沼郡荒戸城を攻撃する[越佐史料5]
	③.26		景勝、府中を発ち中郡に向かう(②639)
		4	景勝、三条城を攻撃する(②639)
		4.22	景勝、栃尾城を攻略する(②639)
		6	三条城、城兵の内応により落城する(②639)
	7. 7		景勝、三条城の仕置を行う(②639)
		7.13	景勝、栃尾城の仕置を行う(②639)
		8	景勝、刈羽郡榎村百姓に還住を呼びかける(②640・705)
1581	天正9. 1.28		景勝、魚沼郡上弥彦社(魚沼神社)に修造料として河船1艘を寄進する(②728)
	3. 1		景勝、越中に出陣する[[3]654]
	4. 8		越中松倉城将の河田長親死去(②666)
		4	景勝、佐渡の潟上(本間)帰本斎と連携する(②652)
		4	景勝、越中小出に在陣する[[5]3305]
		4	景勝、越中松倉・魚津両城を仕置し、春日城に帰る[越佐史料6]
		5.2	景勝、上条宜順(政繁)を越中松倉城に派遣する[上杉古文書]
		5	新発田重家、織田信長と結び、景勝と対抗する(②641・666)
		5	竹俣慶綱、新発田重家と新潟津の沖の口(入港税)を争う(②641)
		6.15	景勝、越中境および頸城郡西浜に人留番所を設ける(②727)
		6.22	景勝、蓼沼友重を蒲原郡木場城将とする(②641)
		7	景勝、柏崎町に制札を出す[[4]2278]
		8	武田勝頼の臣長井昌秀・跡部勝資・長坂光堅、上杉景勝と新発田重家の間の調停を試みる(②641)
	9. 1		毛利秀広、春日山城内で山崎専柳斎と直江信綱を斬殺し、自身も殺される(②666)
		9	景勝、直江信綱の跡を樋口兼続に嗣がせる(②667)
		11.19	景勝、安田治部少輔に阿賀野川を新潟港まで下る「小河船」1艘の通行税を免除する(②361・729)
		12.1	景勝、柏崎町に伝馬・宿送などにつき掟を出す(②704・726)
1582	天正10. 2.26		会津芦名盛隆、景勝と新発田重家の間を調停する[[3]719 [4]1661・1662]
	3. 1		景勝、蔵田五郎左衛門に青苧座の権利を安堵し、国中から青苧公事を徴収することを命じる(②392)
		3.11	武田勝頼、信長の攻撃を受け自害する(②642)
		4.26	景勝、佐渡久知・潟上の両本間氏と誓書を交わす(②652・757)
		4	景勝、上条宜順を新発田重家のもとに派遣する(②666)

	5	景勝, 織田軍に対抗し越中に出陣する。森長可の越後侵入の報を受け, 急ぎ帰国する(②644)
	6. 2	本能寺の変。信長自害する(②642・644)
	6. 3	上杉方の越中魚津城, 織田軍に敗れて落城する。城将, 全員戦死する(②644)
	6	景勝, 北信に侵入し, 川中島4郡を押え, 上杉家臣信濃衆約70人の本領を安堵する(②645・688)
	7	景勝, 信濃長沼に掟を出す(②646)
	8. 5	景勝, 越後に召し連れる信濃衆の知行分の諸役を免除する[[5]3503]
	8. 8	景勝, 信濃葛山衆へ定を出し, 農民の還住を命じる(②689・705)
	8. 9	景勝, 新発田攻撃のため府内をたち下郡に向かう(②642)
	8.25	景勝, 五十公野に着陣する(②642)
	9.晦	景勝, 新発田城を攻めきれず, 兵を引く(②642)
	12	景勝, 「夢想連歌」百韻の連歌会を催す(②743)
1583	天正11. 1.12	景勝, 羽柴秀吉と和し, 誓書を送る(②644)
	2. 7	羽柴秀吉, 誓書を景勝に送り, 越中佐々成政の攻撃を求める(②644)
	2.14	佐々成政, 越後に侵入する。越中の諸将, 景勝の出兵を求める(②644)
	2.21	景勝, 信州葛山衆を越後府内に在勤させ, 妻子とも府内に移住させる(②689)
	2	景勝, 村上景国に代えて上条宜順に信濃諸将を統轄させる(②647・666・688)
	3.17	羽柴秀吉, 上杉景勝に越中出兵を求める(②644)
	3	信濃屋代秀正, 徳川家康に応じ, 上杉方に背く(②647)
	4. 8	景勝, 信濃に出馬して屋代秀正を攻撃する(②647)
	4.17	景勝, 糸魚川に新城を築き, 越中牢人衆を入れ, 秋山定綱を横目とする(②645・684)
	4	羽柴秀吉, 越前・加賀・能登・越中を平定, 寺内織部を景勝に遣わして景勝の向背を問う[越佐史料6]
	5. 1	景勝, 府内を発ち下郡に向う(②643)
	5	景勝, 新潟に寄居を築き, 新発田勢に備える(②643)
	6.17	越中の佐々成政, 新発田重家に羽柴秀吉との連絡を勧める(②643)
	6	景勝, 大石元綱を羽柴秀吉に遣わし, 誓書を入れて同盟を固める[越佐史料6]
	7.12	景勝, 本庄繁長に幕紋の使用を許し, 故上杉景信の座席を与える[越佐史料6]
	7	景勝, 国内に徳政令を出し, 町方, 農村の復興をはかる(②705)
	8.中	景勝, 新発田攻撃のため出兵する(②643)
	8	羽柴秀吉, 景勝に人質の提出を求める(②648)
	9.11	景勝, 下郡から春日山に帰る(②648)
	10. 9	景勝, 清水内蔵助に天神山城在城を命じる[越佐史料6]
	12.13	景勝, 宮島将監に柝尾城在城を命じる[越佐史料6]
	12	景勝, 板屋光胤の信州への帰国に際し, 宿送り30人と雪踏み人足の徴発を認める(②375)
1584	天正12. 2.11	景勝, 栗林政頼に魚沼郡荒砥城在城を命じ, 荒砥関所通行の者から関銭徴収を命じる(②728)
	2.14	景勝, 桐沢具繁に琵琶島城在城を命ずる[[5]2766・越佐史料6]
	4.26	景勝, 信濃川中島4郡の兵を虚空蔵山に在陣させ, 島津義忠を横目とする[越佐史料6]
	4	景勝, 信濃塩崎に禁制を出す[越佐史料6]
	5.1	会津の芦名氏, 景勝の下郡出馬の際に船を調達することを約束する(②729)
	5.13	上条宜順, 信濃海津城へ入る(②647・666)

	5.23	景勝, 信濃から府内へ帰る[[3]371 [5]2768・3634]
	6.2	景勝, 上条宜順の子を養子として羽柴秀吉の人質に送る(②648・666)
	6	越中の佐々成政, 羽柴秀吉に抗して, 景勝に同盟を求める。景勝, 応ぜず[越佐史料6]
	8. 2	景勝, 信濃に出陣する[三条土田氏所蔵文書・越佐史料稿本]
	8	景勝, 後藤勝元を派遣し, 佐渡羽茂・河原田両本間氏の抗争を調停する(②652)
	9	景勝, 前田利家との約束により須田満親を越中境に出馬させる[[5]3765・4099・4333]
	10.26	景勝, 越中境要害を攻撃する(②645)
	12	尊朝法親王, 長谷三位法眼を越後に派遣し, 景勝と新発田重家の間を調停する(②644)
1585	天正 13. 3.	景勝, 再び後藤勝元を派遣し, 佐渡の領主間紛争を調停する(②652)
	5.23	景勝, 信濃出陣から春日山城に帰る[覚上公御書集]
	6.12	景勝, 上条宜順に代え, 須田満親を信濃海津城将とし, 川中島4郡を統轄させる(②667・688)
	7.15	信濃の真田昌幸, 景勝と同盟し, 誓書を交換する(②647)
	7	景勝, 越中境に出陣する(②645)
	8	景勝, 越中から春日山城に帰る[覚上公御書集]
	12.1	景勝, 信濃川中島4郡に掟を出す(②648)
1586	天正 14. 2. 2	景勝, 漢和連句百韻の会を催す(②743)
	5	尊朝法親王, 再び長谷三位を越後に派遣し, 景勝と新発田重家の間を調停する[[4]2186]
	5.2	景勝, 上洛のため春日山城を出発する(②648)
	6. 7	景勝, 京都に入る(②648)
	6.12	景勝, 聚楽第で豊臣秀吉に謁見, 臣従の礼をとる(②488・649)
	6.22	景勝, 参内して従四位下, 左近衛権少将弾正少弼に任じられる(②649)
	6.23	秀吉, 景勝に佐渡の支配を命じる(②649・652・757)
	7. 6	景勝, 春日山城に帰る[越佐史料稿本]
	7.1	景勝, 秀吉に「銀五百枚, 山布三百端」を贈る(②356・390)
	7.17	景勝, 佐渡の久知本間与十郎に春日山城出仕を求める(②652・757)
	8. 3	秀吉, 景勝に東国への申次ぎを命じる[[5]3477・3478]
	8. 9	景勝, 新発田攻めのため春日山城をたち, 下郡に向かう(②650)
	9	秀吉, 木村清久を越後に派遣し, 景勝と新発田重家の間を調停する(②650)
	9	景勝, 下郡から春日山城に帰る[越佐史料稿本・歴代古案]
	10. 1	景勝, 新潟・沼垂・蒲原を直轄とし, この日沼垂と蒲原に掟を出し, 新潟津の普請を命じる(②368・720～722)
	10. 6	新発田重家, 秀吉の調停を拒否する[覚上公御書集]
	11. 4	秀吉, 新発田重家討伐に方針を変更, 景勝に対し重家討果たしを命じる(②650)
		◇嶋垣氏, 上杉景勝の沼垂攻めに忠勤を励んだ功により, 沼垂町支配と上杉氏蔵宿を命じられ, 所有回船の関税免除される(③644)
1587	天正 15. 4. 4	景勝, 春日山城から下郡に出陣する(②651)
	5.13	景勝, 水原城を攻め落す(②651)
	6. 1	蒲原郡の木場在番衆に掟を出す[越佐史料稿本・歴代古案]
	8	芦名義広, 小川莊石間を本拠とする家臣小田切弾正に, 景勝のため船の調達を命じる(②730)
	9.14	新発田の赤谷城が落城する(②651)
	10.25	新発田城が落城し, 新発田重家戦死する(②651 ③150)。その後, 新発田城には景勝代官清水内蔵介・宮島三河守が在番する(③150)

		11	大国実頼, 越後国統一の報告に上洛する[[3]742]
1588	天正16. 1.11		景勝, 家中の士を集め, 初春の連歌会を催す(②743)
		1.27	景勝, 連句会を催す(②746)
		3.1	頸城郡西海村, 御前山村と山論, 「鉄火」が行われる(②709・794)
		4	景勝, 再び上洛のため出発(②651)
		5.12	景勝, 京都聚楽第で豊臣秀吉と対面する(②651)
		5.26	景勝, 従三位に叙される(②651)
		6.15	秀吉, 景勝に在京賄料として, 近江の蒲生・野洲・高島郡内で1万石の地を与える(②651)
	8. 4		景勝, 大坂の末吉勘兵衛の持船6艘に対し, 「分国諸浦往還」の自由を許す(②408・731 ③726)
		8.2	色部長真, 従五位下修理大夫に任じられる[[4]2054・2055]
		8.26	景勝, 春日山城に帰る[覚上公御書集]
		8	秀吉, 景勝に同道した直江兼続・色部長真・須田満親に豊臣姓を授ける(②651)
		8	上杉景勝, 帰国の途中で後藤勝元を佐渡へ送り, 佐渡の抗争を調停させる(②653)
		8	本庄繁長, 出羽庄内に侵入する(②656)
		11.24	景勝, 繁長の庄内制圧を祝す[[5]3176]
1589	天正17. 2.		景勝, 新発田に制札を出す[[5]3418]
		2	景勝と芦名義広の和睦が成立する(②655)
		6.12	景勝, 佐渡に進攻する(②653・758)
		6.16	景勝, 佐渡を平定する(②653・690・758)
		6.24	景勝, 佐渡平定を豊臣秀吉に報告する(②653)
	6~7.		佐渡各地に制札を出す(②653・761)
	7. 1		出羽庄内の大宝寺千勝丸(義勝), 庄内問題で上洛する(②656)
	8. 1		景勝, 佐渡の仕置を行う(②653・690)
		10.1	景勝, 秀吉の小田原攻めの軍役として, 100石につき6人半役を命じられる(②654)
1590	天正18. 3. 1		景勝, 前田利家に従い, 北条氏攻撃のため信濃経由し上野に向かう(②654)
		3	景勝, 小田原出陣にあたり, 東行祝賀の百韻の会を催す(②747)
	8. 1		秀吉, 景勝に出羽国庄内3郡の支配を命じる(②657・691)
	8.下		景勝, 庄内に入り, 検地する(②657)
		9.18	秀吉, 景勝に出羽国仙北・秋田地方の検地を命じる(②658)
		10	出羽国仙北・庄内地方に一揆おこる。景勝, その鎮圧にあたる(②658)
		10	景勝, 色部長真に出羽国平鹿郡大森城在番を命じる[色部史料集]
		11.2	景勝, 出羽庄内の仕置を終えて春日山城に帰る(②658)
		12	景勝, 大宝寺千勝丸に急ぎ上洛を命じる[[5]3350]
1591	天正19. 3.15		秀吉, 朝鮮出兵のため, 景勝に1万石につき200人の軍役を命じる(②659・675)
		3	色部長真, 出羽仙北から帰国する[色部史料集]
		4	出羽庄内の藤島付近で一揆おこる。直江兼続, 藤島に向かい, これを治める(②658)。秀吉, 一揆扇動の疑いにより本庄繁長を改易する(②659・691)
		6.2	秀吉, 景勝に陸奥奥郡(九戸一揆)仕置の出兵を命じる[山形県史]
		7.13	景勝, 九戸政実を討つため奥州奥郡に向かう(②659)
		7.22	秀吉, 景勝に肥前名護屋に5000人の出兵を命じる(②659)
		8	景勝, 分国中に京升の使用を命じる(②711)
	10.上		景勝, 陸奥から春日山城に帰る(②659)
1592	文禄1. 2. 1		景勝, 蒲原郡杉名荒野村の復興のため, 諸役を免除する(②706)
	3. 1		景勝, 5000人の軍勢を率い春日山城を発ち, 4月上旬肥前名護屋に着く(②659)
	6. 3		直江兼続, 肥前名護屋の陣中で漢和連句の会を催す(②747)
		8.14	色部長真, 病気のため肥前名護屋から帰国を許される(②660)

		8	景勝、肥前名護屋に回送させた米3000石を秀吉に献上する(②660・673・732)
		11	景勝、佐渡各地で検地を行う(②713・764)
1593	文禄2. 1.10		景勝、陣中で連歌会を催す(②747)
		3.18	この日から佐渡西三川の砂金、毎年3駄ずつ秀吉の伏見御蔵へ納められる(③538)
		3	景勝の軍勢、大谷吉継の手に属し、朝鮮の目楚(普州)城を攻囲する(②660)
	6. 2		景勝、秀吉の名代として朝鮮へ渡る(②662)
		8	朝鮮在陣中の藤田信吉配下の者310人のうち44人が病気となる(②660)
		9. 8	景勝、肥前名護屋にもどり、同月下旬越後に帰る(②662)
		10.2	出羽の秋田実季、能生の大島九右衛門尉の800石積み船の諸役を免除する(②406・732)
1594	文禄3. 1.19		秀吉、景勝に伏見城惣堀の普請役4000人を割り当てる(②662)
		2.15	景勝、伏見城惣堀普請のため人夫を率い春日山を出発、普請を監督する(②662)
		3.16	寺泊から安田筑前守の兵糧100石、新潟から蓼沼友重・矢野加左衛門の兵糧50石が敦賀に海路輸送される(②732)
		7	直江兼続、居城を越後におくか、信濃におくか、出羽羽黒山に神意をうかがう[越佐史料稿本]
		9.19	上杉氏の佐渡代官、大河・羽丹生の山論を裁定する(②710)
		9	「文禄三年定納員数目録」が作成される(②667・674)
		10.28	秀吉、京都の上杉邸を来訪する(②663)
			◇景勝、土貢・棟役調査を命じる(②673・678)
			◇蒲生氏郷の「知行高目録帳」に津川分として船頭御賄分631石がみられ、津川船の組織化がはかられていた(③717)
1595	文禄4. 1.17		秀吉、越後・佐渡の金山代官を景勝に命じる(②674・724・763)
	2. 9		直江兼続、刈羽郡藤井堰の掟を出す(②708)
		3.19	村上城将春日右衛門、岩船郡三面村に法度を出し、無手形の者の番所通行を監視させる(②706)
		5	佐渡の鶴子銀山に、石見国から忠左衛門、忠四郎、石田忠兵衛ら3人が見立人として訪れ(②763)、鶴子銀山で初めて坑道掘りが開始される(③507・524)
		6	増田長盛の手代、秀吉の命により蒲原郡南部で太閤検地を行う(②673・713)
		7	景勝上洛、伏見に邸地を与えられ、12月屋敷が竣工する(②663)
		10	越後・信濃の検地を終わり、御検地帳目録を御蔵におさめる(②714)
		12	京の妙心寺住職南化玄興、直江兼続を賞し、秘蔵の「前漢書」12巻を贈る(②756)
1596	慶長1. 9.16		兼続、本堂山城将丸田俊次に対し、分国境の厳戒と阿賀野川笹堀の渡しを設置し、人と荷物の監視を命じる(②727)
		10	魚沼郡北部で土貢調査を行う[越佐史料稿本]
1597	慶長2. 1.21		秀吉、景勝に伏見舟入普請の手伝いを命じる(②663)
		2.1	兼続、京都や他国への詰夫の条規を定める(②664)
		2.16	景勝、春日山城普請のため、諸将に100石につき5人の役夫負担を命じる(②664)
		3.13	佐渡久知郷の中使・百姓、なた銭について申合せする[[5]3015]
	10～12.		上杉氏の知行制が改められる(②673・676・715)
		10.15	新潟の二郎右衛門、秋田から敦賀に輸送する豊臣家御用杉の運搬にあたる(②732)
		11	越後国郡絵図が作成される(②692・714)
		12.19	古志郡平の守門神社、平・原・那木野・宮沢・七谷に高103石7斗7升を所有する(③814)
			◇上杉氏、越後国内の検地を実施する(②715 ③195)

		◇村上町軒数, 252という(③619)
		◇河村彦左衛門, 佐渡で「一国御成箇御年貢吟味」をして増年貢を課し, 百姓と「不縁」となる(③281)
		◇国上寺, 弥彦神社で大般若転読・不動護摩その他を執行し, 101石余が充てられる(③819)
1598	慶長3. 1.10	豊臣秀吉, 上杉景勝を会津へ移す(②13・773③3・4・15・49・674・706・783)
	4. 2	秀吉, 堀秀治を越前北庄から春日山に, 村上頼勝を加賀小松から村上に, 溝口秀勝を加賀大聖寺から新発田に移す(②13・787③3・4・15・143・150・173・236・243・252・615・674)
	6.11	蒲原郡関根蔵丞, 新発田藩から茨曾根新田分を与えられ, 開発をはじめ(③457)
	7. 6	この日から8月にかけて, 新潟の石井彦五郎, 出雲崎の橘屋次郎左衛門, 佐渡沢根の甚助ら, 秋田氏が敦賀に送る豊臣家御用杉の運搬にあたる(②406・732③737)
	7	秀治, 太閤検地方式により領内総検地を開始する(②791③4・20・195・208・225・238・252・292・298・409・495・783)
	9.13	刈羽郡妙法寺村検地帳に, 草水油御年貢3石とみえる(⑤374)
	12	秀治老臣堀直政, 刈羽郡三島神社・鶴川八幡に寄進状を, また頸城郡松之山村へは空き家分の白布・青芋代銀用捨状を発給する(③19)
		◇堀秀治の与力大名として, 弟の親良が古志郡蔵王堂城へ, 堀直奇が魚沼郡坂戸城に入る(③16・115・577)
		◇秀治, 頸城郡根知城に弟左門を置く(③571)
		◇栃尾城廃城となる(③680)
		◇堀直奇, 浄興寺末正覚寺を信濃国水内郡から長岡に招く(③785)
		◇秀吉に上納された黄金の内, 越後産の金が約3分の1を占める, 佐渡産の金を合わせると, 越佐の金が全体の約5分の3にのぼる(②723 ③541)
1599	慶長4. 2.13	秀治, 頸城郡新井宿に対し, 手形不所持の者に伝馬・継人足を出すことを禁止する(③688)
	2.14	加賀の前田利家, 能登・越中から佐渡へ金掘りに渡る者1人につき, 5貫目を課税する(③527・535)
	3	新発田藩, 蒲原郡鶴森村の信濃川築堤工事を小吉島組の村々に命じる(③455)
	10.1	新潟の石井彦五郎船, 蝦夷松前へ赴き, 領主松前(蛸崎)氏から諸役免除の特権を与えられる(③737)
	12	徳川家康, 田中清六に対し, 北国諸港の諸役を免じる(③49)
		◇秀治, 根知城に堀下総守を置く(③571)
		◇教如, 佐渡光福寺・専念寺に蓮如・親鸞の真影を下付する(③799)
1600	慶長5. 1.25	秀治, 姫川渡し船の船頭に高10石の扶助を与える(③688・721)
	2.22	新発田藩主溝口氏, 本成寺領300石を安堵する(③807)
	3	秀治, 福島に城移築計画をたてる(③26)
	6.14	家康, 新発田の溝口秀勝に佐渡出兵が必要ない旨を伝える(③49)
	7.22	景勝の軍勢, 六十里越から越後に侵攻, 越後一揆起こる(②791 ③4・23・143・173・195・783)
	8. 1	魚沼郡一揆勢, 堀之内の下倉城を攻め, 城将小倉主膳正, 討死する(③24)
	9.15	家康, 関ヶ原の戦いで石田三成軍を破る(②786・793 ③15・507)
	9.21	家康, 蔵王城将堀親良に越後一揆平定に対する感状をおくる(③25)
	9.24	上杉氏代官河村彦左衛門, この日から28日にかけて佐渡全島の検地を行う(②13・767・787 ③5・49・281・331・462)。彦左衛門, 検地にあたり, 寺領を旧来の3分の1に削減する(③819)
	10. 5	秀忠, 溝口秀勝に越後一揆平定に対する感状をおくる(③25)

		◇越後の真言宗寺院・修験，越後一揆に際し，上杉氏に荷担したため，堀氏の弾圧を受けると伝えられる。これに対し真宗寺院，堀氏に協力する(③783・785)
		◇糸魚川清崎城の築城を開始する(③571)
		◇田中清六，家康の命を受け，佐渡受取りに渡海する。上杉氏代官河村彦左衛門これに応じ，椎野与市，反対し誅滅される(③49・507)
		◇田中清六，佐渡五十里と下戸に十分一役所を設置する(③535)
1601	慶長6. 5. 5	家康，田中清六に朱印状を与え，佐渡金銀山に金掘りを集めること，河村彦左衛門を登用することを命じる(③49・527)
	6	家康，佐渡を直轄地とする(③3・5・39・49・507)
	8	会津藩仕置奉行岡半兵衛，津川を居城とし，小川荘の支配にあたる(③188)
		◇佐渡相川に大鉱脈発見される(③50)。佐渡代官田中清六，金銀山経営に運上入札制を採り入れる(③507)
		◇秀治，糸魚川清崎城に堀下総守を置く(③571)
1602	慶長7. 2.	新発田藩主溝口宣勝，信濃川沿いの上八枚・大郷・鳥屋・合子ヶ作の4か村に，手形所持の者に船を出すことを禁じる(③712)
	4	堀秀治，佐渡の成敗を命じられる(③69)
	8.12	堀下総守，魚沼郡須原村宮原の守門神社に社領を寄進する(③815)
		◇家康，旗本の中川主税・吉田佐太郎を佐渡代官とする。前任の田中清六・河村彦左衛門と合わせ，代官4人となる(③49)
		◇佐渡金銀山からの運上銀1万貫にのぼる(③507・511)
		◇教如，佐渡西蓮寺に親鸞・聖徳太子真影を下付する(③799)